

問題ニ関シ支那側官憲ト交渉ヲ開始スルコトト致度ト述ヘタルニ付右ニ対シ

木村局長ハ本年七月吉会鐵道ニ閏スル滿鉄大藏理事トノ会

談（滿蒙鐵道問題ニ閏スル会談ノ一部）殊ニ別添滿蒙鐵道ニ閏スル方針中吉会鐵道ノ部ノ要領等本件経緯ノ大様ヲ話シ聞カセタル上滿鉄ニ於テハ本問題ニ対シ充分好意ヲ以テ考慮シ居ルノミナラス太興合名關係弓長嶺鐵鉱ニ対シテモ鉱質サヘヨケレハ考慮スヘシトテ好意ヲ寄セ居ル次第ニ付右吉会線問題ニ付滿鉄ヲ向ニ廻シテ事ヲ進ムコト肝要ナリ從係上好マシカラス万事滿鉄ト協調シテ進ムコト肝要ナリ從テ貴下ニ於テモ先ツ滿鉄大藏理事ト協議セラレ且右協議ノ結果ハ一応當方ニモ通報アリタル上支那側トノ交渉ヲ開始セラルルコトト致度ト述ヘタルニ

飯田ハ委細了承セリ万事御指示ノ如クスヘシト答ヘテ辞去シタリ

（大正十五年十月四日岡崎記）

吉会鐵道ニ閏スル方針

吉林会寧線（實際上ハ敦化会寧線）、本線カ我国々防上並

一〇六六 十月十九日 在奉天吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）
吉敦線工事費追加ノ改訂契約ハ張作霖ノ財政
窮迫対策ナルコト明ラ力ナルタメ本件中止方
滿鉄ニ訓令アリタキ旨具申ノ件

第三一八号

十月十九日遼東新聞所報ニ依レハ今回滿鉄ハ吉敦線工事中老爺嶺、大沙河、六道河子、威虎嶺ノ四ヶ所ニ隧道ヲ設ケルコト便利ナルヲ発見シ目下調査中ナルカ調査終了後右工事費予算約三百万円追加ノ改訂契約ヲ北京政府交通部トノ間ニ行フヘシ云々トアリ本件実質ハ張作霖カ鐵道資金ノ名

目ノ下ニ満鉄ニ対シ財政ノ窮迫ニ応スル為ノ所為ナルコト明ニシテ彼カ頻ニ本件ヲ以テ満鉄側ニ迫リ居レル趣ハ当地ニ於テ過般來專ラ風聞シ居リタリ右新聞報道事實ナリトセシ奉票武力維持策カ彼我通商ヲ阻害シ我商民ノ利益ヲ迫害シ居ル事実ヲ指摘シ之カ救濟ニ閑スル我求メヲ容レサル不都合ニ対シ帝国政府カ甚タ不快ニ感スル次第ヲ暗示シ居ル

折柄滿鉄カ張ノ斯ル要求ニ聽從シ帝国政府亦之ヲ黙過ストアリテハ奉票問題ニ対スル交渉モ遂ニ所期ノ目的ヲ達シ難キニ付滿鉄カ張ニ対シ承諾ヲ与ヘタリトスルモ奉票問題ニ閏スル我要求ヲ容レサル限り此種財政的張作霖援助ハ帝国政府ノ容認スル能ハサル處ナリトシテ本件中止方滿鉄ヘ御訓令相成リ度シ

公使及満鉄ヘ転電セリ

（4）賓黒鐵道關係

一〇六七 一月十六日 在チチハル中野領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛

呼海鐵道工事計画等ニ閏スル高總弁ノ談話報

告ノ件

本機密第一七号 （一月二十七日接受）

大正十五年一月十六日

在齊齊哈爾

領事代理 中野 勇吉（印）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

呼海鐵道ニ閏スル高總弁ノ談話報告之件

数日前ヨリ来齊中ナル呼海鉄道總弁高氏本月十五日本官ヲ來訪ノ砌當該鐵道ニ閲シ大要左ノ如キ談話ヲナセリ

起工予定期日ハ昨年九月初旬ナリシカ機械車輛等ノ不足及測量ノ關係上愈々工事ニ着手セルハ九月中旬過ニシテ

松浦鎮（別名馬家船口）呼蘭間ヲ三段ニ分チ在「ハルビン」支那人魯潭巴英原支那人某及在哈爾賓露國人（「ハルビン」ニ二十余年在住スル旧党ノ一人）ニ請負ハシメタルカ起工後一週日モ過キサルニ地面凍結セルタメ工事中止ノ已ムナキニ至レルカ今年ハ解氷ヲ待チ直ニ工事ニ着手スヘク障害ナキ限り今年末マテニハ綏化迄完成スル

予定ナル處呼蘭綏化間測量ノ結果綏化ノ手前ニ幅員十二支里ニ涉ル泥濘地帶ヲ発見セルヲ以テ此間多數ノ鐵橋ヲ架設スルカ或ハ東方ニ之ヲ避ケテ二十支里ヲ迂回スルカ何レ工費ヲ比較採算ノ上決定スヘシ
海倫迄完成スルハ來年末ナルヘク勿論将来ハ拝泉、克山ニモ延長シ嫩江ニテ洮齊延長線ト連結スルニ至ルヘク又齊齊哈爾ヨリ更ニ拝泉方面ニ支線ヲ出スコトモ頗ル有利ト信ス

工費ハ松浦ヨリ呼蘭ニ至ル間約五十万元（鐵橋材料枕木

大規模ナル賓黒鐵道敷設計画ニツイテハ満鉄ノ社議未決定ナル旨及ビ松浦呼蘭間ノ材料購入契約通報ニ閲スル件

付属書一 大正十四年十二月十九日

賓黒鐵道材料供給契約ニ閲スル松岡滿鉄理事

談話

二 大正十四年十二月二十一日幣原外務大臣發在

中國芳沢公使宛電報第七五八号

小田切正金取締役ノ露亞銀行代表ド・ホイヤ

一ヘノ対応方ニ閲シ指示ノ件

付記 大正十四年十一月二十五日外務省調書

賓黒鐵道

亞一機密第八号

賓黒鐵道ニ閲スル件

往電第七号前段ニ閲シ

最近当方ニ於テ満鉄本社ヨリ接受シタル報告ニ依レハ同社ニ於テハ貴地滯在中ノ大藏理事ニ對シ本件ニ付問合セタル

處大藏理事ヨリ「オストロモフ」ハ今般呼海鉄道建設請負

ニ閲シ吳俊陞ト交渉ノ結果取り敢ヘス本年中ニ海倫迄ヲ三

区ニ分チ之カ実測ノ委任ヲ得タルカ如キモ右ハ勿論本鉄道

建設工事一切ヲ引受クルナト進ミタル話ニハ非ル処孰レニ建設工事一切ヲ引受クルナト進ミタル話ニハ非ル処孰レニ

（付属書一）

ヲ含ム）ヲ要シ尚呼海鐵路公司ノ總資本ハ約九百余萬元ノ予定ナリ現在ハ信用ナキタメ株式募集ニ困難ヲ感シ居ルモ綏化マテ築設セハ運賃ノ収入年二百萬元以上ニ達スル見込ナル故世人ノ信用ヲ得ルニ至ルヘキヲ以テ綏化以北ノ築設ニハ別ニ資金ノ欠乏ヲ感スルコト勿ルヘシト思ハルモ綏化ニ至ル迄ノ経費約五百萬元ハ省政府ニ於テ之ヲ負担セサルヘカラス
尚「オストロモフ」モ吳督弁ノ凱旋祝賀旁々鐵道工事一部請負ヲ目論見来齊セルカ既ニ吉祥カ總請負ヲ為シ居ル關係上将来吉祥ト「オ」トノ兩人ニ於テ談合スルコトトナリ結果ヲ得シテ哈爾賓ニ立チ去レリ
尚高總弁ハ呼蘭鐵橋ハ材料運搬等河水凍結中反テ便利ナルタメ目下頗ル多忙ナルハ今夜ニモ用事済ミ次第帰任スヘシトテ本官晚餐ニ引留メタルモ之ヲ固辞シテ立チ去レリ
右何等御参考迄報告申進ス
本信写送付先 在支公使、在奉天、哈爾賓各總領事、在長春領事、在滿州里領事、在黑河下村書記生

一〇六八 一月二十六日

幣原外務大臣ヨリ
在ハルビン天羽總領事宛

スルモ該美測ハ何人カノ手ニ依リテ行ハレサル可カラサルコトナルニ依リ其ノ費用二万五千円ヲ満鉄ヨリ「オストロモフ」ニ対シ支出シ之ヲ援助シテハ如何トノ旨ノ返電ニ接セルヲ以テ不取敢満鉄本社ヨリ大藏理事ニ対シ「オストロモフ」ヲ満鉄ト支那側トノ間ニ介在セシムルカ如キ結果トナル措置ニ閲シテハ慎重考慮ヲ要スル處右ハ近々安広社長ノ帰還ヲ待チテ審議スヘク從ツテ実測費支出ノコトモ右根本方針確定後之ヲ決定スルコト然ルヘシトノ旨返電シ置キタル由ナルカ以上ノ次第ニテ大規模ナル賓黒鐵道敷設計画ニ閲シテハ満鉄ニ於テモ社議トシテ未タ何等決定シ居ラサル次第ナリトノ趣ナリ
尚本件ニ閲連シ賓黒鐵道材料供給契約ニ閲スル松岡滿鉄理事談話要領写一部貴官御参考迄別紙甲号ノ通り送付致スニ付右ハ当分極秘扱ヒトセラレ度シ
又往電第七号末段露亞正金両銀行間ノ交渉ニ閲シテハ客年十二月二十一日在支公使宛別紙乙号ノ通り訓令シ置キタルニ付委細別紙ニ就キ御了承相成度此段申進ス
写送付先 在支公使、奉天總領事

(別紙甲号)

賓黒鐵道材料供給契約二関スル松岡満鉄理事談話

大正十四年十二月十九日松岡満鉄理事ハ木村亜細亞局長ヲ來訪シ曩ニ満鉄ト黒龍江省官憲トノ間ニ締結セラレタル賓黒鐵道材料供給契約ニ關シ左ノ通説明セリ

大正十四年晚夏黒龍江省督弁吳俊陞ト東支鐵道長官イワノフトノ間ニ馬家船口ヨリ綏化ニ至ル鐵道布設（軌幅ハ五呎ニシテ黒龍江省ニ於テ建設ス）ニ關シ露西亞側ヨリ「レール」ト建設材料トヲ無償ニテ供給シ且輪転材料ヲ極メテ安価ナル貸料ニテ貸与スルノ条件ヲ以テ内密協議纏リ居ル旨ノ情報ニ接スルヤ満鉄ニ於テハ張作霖及吳俊陞ト内談シ其ノ結果張作霖ヨリ吳俊陞ニ對シ露西亞側ト斯ノ如キ鐵道布設ニ関スル交渉ヲナスヘカラサル旨嚴命シ（張作霖ハ本件ヲ何等聞知セサル態ヲ装ヒタルモ其寒吳ヨリ予メ張ノ同意ヲ取付ケイワノフト交渉ヲ進メタルモノナルコト疑フノ余地ナキカ如シ）吳モ亦イワノフトノ交渉アリタルコトハ飽迄否認シタルカ結局黒龍江政務庁長程廷恒（若クハ代人）ヲ大連ニ派シ満鉄側ト協議ノ結果大正十四年十月十日別紙ノ通り松浦（旧名馬家船口）呼蘭間ノ鐵道建設三要スル材料車輛及付屬品購入ノ契約ヲ吳督弁及黒龍江省省長于鵬興

ト満鉄社長トノ間ニ締結スルニ至レリ然ルニ露國トノ關係ヲ顧慮シ之ヲ秘密ニ付シ置キタルカ其ノ後時局ノ關係上尚更本件契約ハ之ヲ極秘トナシ居レリ又本件契約ヲ締結スルニ至レル画策ノ首眼トスル處ハ予テ我政府ノ御指示ノ下ニ満鉄カ裏面利害關係ヲ有スルニ至レル賓黒鐵道予定線路上ニ事實上露國側ノ手ニ依リ五呎軌道ノ鐵道ヲ布設セラルルノ事態ヲ不敢阻止セントスルニアリタリ尤モ別紙契約ニ於テ差當リ目的トセル松呼鐵道ハ僅カ二十數哩ノ鐵道ニシテ若シ其ノ布設實現可能ナラハ右契約ヲ真面目ニ満鉄ニ於テ之ヲ履行スルコト勿論ナリトス但シ小職ノ見ルトコロニ拵レハ其ノ實現ハ黒龍江省側ノ唱フル如ク左程容易ナルモノトハ思考セラレス本件契約ニ付テハ何レ其内正式手続ヲ踏ミ我政府ノ御承認ヲ求ムルコトト致スヘキモ露國側ノ企図ヲ探知スルヤ非常ノ努力ヲナシ云ハハ突嗟ノ間ニ不取敢臨機ノ措置ヲ採リタル次第ニシテ而カモ前陳ノ事情モアリ旁々今日迄正式手續ヲ踏ムニ至ラサリシ次第ナリ御諒察ヲ乞フ

尚本件ニ関連シテ茲ニ注意ヲ仰キ置キ度キコトハ

イ、由來黒龍江省官民（官辺及省議会）ハ一九一六年三

月露亞銀行ト支那政府間ニ結ハレタル賓黒鐵道契約ヲ以テ無効ナリト主張シ此点ニ關シ如何ニ其反省ヲ求ムルモ頑トシテ承知セサルコト且張作霖ノ態度モ亦同様ナリ

口、北京政府交通部モ亦右契約ヲ支持スルノ腹ナキコト

尤モ歴代ノ交通總長中ニハ或ハ之ヲ支持セントスルカ

如キ人物ノ出ツルコトアリ得ヘキモ支那中央政府ノ威

令東三省ニ行ハレサル限り右契約ノ実行ヲ期スルコト

能ハス而シテ其ノ威令ヲ行ヒ得ル如キ局面ノ展開ハ今

日ノ所殆ント予想シ得サル処ナルコト

ハ、右契約ヲ履行シ得ル場合ニアリテモ日本トシテハ何

トカシテ右契約中ニ記セル五呎軌道ヲ四呎八吋半ノ標

準軌道ニ修正セシムルコトヲ必要トスルコト之ナリ

右三点ニ就キ考量スルトキハ結局賓黒鐵道ノ実現ハ地方官

民トノ提携（黒龍江省ノ官弁ノ形式ヲトルノ外方法無カル

ヘシ）ニ待ツヲ便利トスルノミナラス怖ラク此ノ方法以外ニ其ノ道ナカルヘシト思考セラル

故ニ満鉄トシテハ絶ヘス黒龍江省官民ノ画策殊ニ米露トノ

關係ニツキ注視ヲ怠ラサルノミナラス場合ニヨリテハ臨機

(別紙乙号)

（付屬書二）

大正十四年十二月二十一日幣原外務大臣發在中国芳沢公使宛

電報第七五八号

小田切正金銀行取締役ノ露亞銀行代表ド・ホイヤーヘノ対応

方ニ關シ指示ノ件

第七五八号

貴電第一〇六六号ニ關シ

滿鉄ニ於テ賓黒鐵道ニ關スル露亞銀行ノ権利譲受ノ件ニ就テハ将来更ニ考慮スルコトシタク目下差当リ満鉄ニ其ノ意向ナク亦時機ニモアラサルヘク且又露亞正金「シンジケート」契約ニ對スル正金満鉄資金融通關係モ未タ之ヲ露亞側ニ開示スルノ時期ニ達セシト認メラルニ付此際小田切ヲシテ「ド・ホイヤー」ニ對シ左記趣旨ニ依リ回答セシメラレタシ

〔満鉄ノ賓黒鐵道建設契約調印ノ件ヲ同社ニ問合セタル処

右ハ曩ニ黒龍江省官憲ニ於テ賓黒鉄道ノ一部馬家船口及綏化間ノ建設ヲ計画シ吳俊陞ト「イワノフ」トノ間ニ右二関スル内約成立シタルニ付満鉄ニテハ之ヲ制肘スルノ趣旨ヲ以テ差当リ哈爾賓対岸ヨリ呼蘭ニ至ル十数哩ノ線ニ付材料供給契約ヲ結ヒタルニ過キサル次第ニテ之ニ依リ露亞、正金ノ利益ヲ侵サントスルカ如キ意思ハ毫モ無カリシ旨ヲ弁シ

(二) 且満鉄ニ於テハ将来本鉄道建設権ノ譲受ニ関シ考慮ヲ加フルコトアリトスルモ下ノ政変動乱ノ実情ニ顧ミ此際本問題ヲ議スルハ時期ヲ得サルニ付追テ政情安定ノ時期ヲ待チ其ノ上ニテ本問題ヲ考慮スルヤ否ヤヲ相談致シ度シトノ意向ナリ

(付記)

賓黒鉄道 (大正十四年十一月二十五日調)

一、 大正五年露亞銀行ハ支那中央政府ト賓黒鉄道借款契約ヲ締結シ同鉄道ノ敷設権ヲ獲得シタルカ其後大正八年六月露亞銀行ト正金銀行トノ間ニ本鉄道ノ敷設經營ニ関シ「シンジケート」組織セラレ同「シンジケート」ニ於テ露亞銀行カ前頭契約上有スル一切ノ権利義務ヲ繼承セリ

トノ趣旨ヲ回答セリ

四、 他方本鉄道工事請負ニ関シ露國側ハ「スキテルスキ」ヲ通シ建設資金又ハ材料ノ供給等ヲ条件トシテ頻リニ要路ニ運動中ナル趣伝ヘラレタルヲ以テ満鉄側ニ於テモ之カ対抗運動ヲ為シ結局大正十四年十月十日安広満鉄社長ト黒龍江省官憲トノ間ニ呼海鉄道材料供給契約締結セラルルニ至リタリ

五、 右満鉄側ノ契約成立ヲ聞知シタル在支露亞銀行代表者「ド、ホイヤー」ハ十一月二十日正金小田切取締役ニ付シ満鉄ニ於テ本鉄道関係「シンジケート」契約当事者ニ諮詢ルコトナク独断ニテ前記ノ契約ヲ締結シタルハ之ヲ默視スル能ハサル次第ナルモ露亞トシテハ北滿地方ノ現状ニ鑑ミ差当リ賓黒鉄道借款契約ヲ実行シ得サル地位ニ在ルヲ以テ該契約ノ精神ニ基キ支那政府ノ承認ヲ得テ右契約上ノ権利ヲ正式ニ第三者ニ譲渡シ度旨ヲ提議シ暗ニ相当ノ報酬ヲ得テ賓黒鉄道ニ付満鉄ノ如キ第三者ニ對シ投出サントスルノ底意アルヲ示シタリ依テ我方ニ於テハ満鉄側ト協議ノ上小田切正金取締役ヲシテ「ド、ホイヤー」ニ対シ曩ニ黒龍江省官憲ニ於テ賓黒鉄道ノ一

越エテ大正十三年右「シンジケート」契約ヲ更ニ五ヶ年間延長スルニ際シ正金銀行ニ於テハ露亞銀行カ借款契約締結當時支那政府ニ交付セル前貸金五十万両ノ元利ノ半額ヲ分担スルコトトナリ大正十三年九月正金ヨリ露亞ニ対シ約三十五万両ヲ交付シタリ

二、 然ルニ黒龍江省官憲ニ於テハ右賓黒鉄道借款契約ト關係ナク數年来屢々本鉄道ノ建設ヲ計画シタルカ未タ何等具体的結果ヲ齎ラササリシトコロ大正十四年四月黒龍江省督弁吳俊陞ハ愈々本鉄道敷設着手ニ決シ張作霖ノ認可ヲ得タル上官商合弁資本金七百五十万元ノ呼海鉄道局ヲ創設シ差当リ馬家船口(「ハルピン」市対岸)呼蘭間ノ鉄道ヲ建設スルコトトナリタル趣ナリ

三、 露亞銀行ニ於テハ右吳督弁ノ計画ハ前頭賓黒鉄道借款契約ニ依リ露亞ノ有スル権利ヲ侵害スルモノナリトシテ大正十四年八月二十六日支那交通部ニ對シ右計画ノ真否ヲ質スト共ニ抗議ヲ申入レタル處同年九月十九日支那政府ハ露亞銀行ニ於テ今尚右借款契約ヲ履行セサル結果黒龍江省官憲ハ同地方ノ輿論ニ基キ地方資金ヲ以テ本鉄道ノ建設ヲ計画スルニ至リタルモノナレハ止ヲ得サルヘシ

部馬家船口及綏化間ノ建設ヲ計画シ吳俊陞ト「イワノフ」トノ間ニ右ニ關スル内約成立シタルニ付満鉄ニ於テハ之ヲ制肘スルノ趣旨ヲ以テ差当リ哈爾賓対岸ヨリ呼蘭ニ至ル十数哩ノ線ニ付材料供給契約ヲ結ヒタルニ過キサル次第ニテ露亞正金ノ利益ヲ侵サントスルカ如キ意思ハ毫モ無カリシ旨ヲ弁セシムルト共ニ本鉄道建設権譲受問題ニ關シテハ支那ノ混亂セル実状ニ顧ミ目下其ノ時期ニ非ナルニ付他日支那政情安定ノ際更メテ本問題ヲ考慮シ度旨回答セシムル様十二月二十一日在支芳沢公使ニ訓電セリ

一〇六九 二月九日 入江満鉄東京支社長事務取扱ヨリ

木村亞細亞局長宛

呼海鉄道請負契約及ビ同鉄道ト満鉄トノ関係

ニツキ通報ノ件

付属書 二月八日満鉄本社文書課長發入江満鉄東京支社
長事務取扱宛電報

右同伴

者ニ對シ投出サントスルノ底意アルヲ示シタリ依テ我方

ニ於テハ満鉄側ト協議ノ上小田切正金取締役ヲシテ「ド、

ホイヤー」ニ対シ曩ニ黒龍江省官憲ニ於テ賓黒鉄道ノ一

支社長事務取扱 理事 入江 海平
外務省

亞細亞局長殿

呼海鐵道ニ閔スル件

去ル五日御送付被下候ハ爾賓天羽總領事ヨリノ本件情報ノ主旨ヲ打電シ其ノ真偽並満鉄ノ関係等本社ニ照会致候処只今別紙写ノ通返電有之候間右為念御通知申上候 敬具
(付属書)

二月八日満鉄本社文書課長發入江満鉄東京支社長事務取扱宛

電報

右同件

入江理事宛 文書課長発

大正十五年二月八日午後〇時四五分発

午後一時四〇分着

呼海鐵道ニ閔スル貴電在哈市大藏理事ニ転電シタルニ左ノ

通り返電アリタリ

呼海線ニ閔スル電見ハ爾賓ノ対岸松浦ヨリ呼蘭迄十二哩位

ノ建設ハ今回呼海線高總理ト「ニヨイ」公司トノ間ニ請負

方契約セラレ七月一日迄ニ當業開始ノコトニ決定右「ニヨイ」公司ハ呼海線理事長吉祥氏ノ經營ニテ吉祥ハ全部ヲ挙

本月八日吉田總領事天羽總領事松岡理事及菊池少將一行來
齊ノ節歎待ヲ受ケタルニ對シ御礼旁々十日張交渉員ヲ往訪
談偶々鐵道問題ニ及ヒタル際張カ小官ノ問ニ對シ極秘トシ
テ内話スル處ニ依レハ

実ハ昨九日于省長程政務府長及自分等鼎座ノ席上松岡理事ヨリ秘密ニ「賓黒鐵道布設材料及資金等不足ノ際ハ何

吳ニ對シテ差シタル好意ヲ有スルニ非ザルモ吳ガ「オ」ニ對シテ好感ヲ有シ信頼スルモノニテ今回ノ鐵道請負ノ如キモ「オ」ハ資金ナク不確實ナルニ不拘吳ガ過信ノ結果之ヲ「オ」ニナサシメタルモノナリ(本館譲報者モ「オ」ハ吳督軍及吉祥兩名之ヲ信用シ居ルモ高呼海鐵路總弁等ハ之ヲ好マズト云ヘリ)

原來吳督弁ハ人ヲ過信スル傾向アリ例ヘバ鶴立崗炭山ノ如キモ趙壽山カ無能ナル男ナルニ之ヲ過信シ第一回東支鐵道ト契約ヲ締結セル時ノ如キ全ク趙ニ一任シ契約ノ保証ニ広信公司ヲ立タシムルコトアリシモ時ノ總弁丁ニハ原契約ヲ全然秘シ只其ノ調印ノミヲ迫リタル為丁ハ遂ニ辞任ノ已ムナキニ至レルコトモアリ該契約ハ現在改正セラレ東支側ヨリハ單ニ「レール」ノ供給ヲ受ケルノミトナリ目下資本一百萬元ヲ募集中ナルガ本件ハ事業トシテハ頗ル有望ナルガ斯クノ如キ大規模ノモノハ到底趙ノ手ニ合ハズ趙ヲ更迭セシメザル限り実現ノ見込ナシ云々等ノ通知ニモ接シ居ラザルヲ以テ何レ督軍帰齊ノ上何レカニ決スベシ

「オストロモフ」ト吳督軍ノ友好關係ニ就テハ「オ」ハ

ケテ「オストロモフ」ニ下請負セシムルコトニ是レ亦契約済ニテ結局「オ」カ全部請負フコトトナレル次第ナリ右ニ要スル資金四十四万円ハ黑龍江省側ニテ用意シアリト云フ又呼蘭ヨリ以遠モ同様ニ請負契約サルル筈ナルカ右ニ要スル資金ノ用意皆無ニテ何レ将来日本側ニ持込ム予定ラシ前記ノ契約書写ハ既ニ落手シ今当事務所ニテ翻訳中ニツキ出来次第送ル又満鉄ハ昨年約束ノ車輛及「レール」貸与以外ニハ何等關係ナシ

一〇七〇 二月十二日 在チチハル中野領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛

賓黒鐵道借款問題等ニ閔スル張交渉員ノ談話

報告ノ件

本機密第三七号

大正十五年二月十二日

在齊齊哈爾

領事代理 中野 勇吉(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

賓黒鐵道借款及鶴立崗輕便鐵道ニ閔シ張交渉員ノ談話
報告ノ件

一〇七一 二月十六日 在ハルビン天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

寶黒鉄道敷設計画ニ関スル意見具申及ビ松浦
呼蘭間請負契約書等送付ニ関スル件

付属書一 松浦・呼蘭間鐵道工事及ビ同架橋工事請負契
約書訳文

二 呼海鐵道松浦・綏化間工事費予算

機密第一一六号

(二月二十六日接受)

大正十五年二月十六日

在哈爾賓

總領事 天羽 英二 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

賓黒鐵道ニ關スル件

往電第四六号客月三十日呼海鐵路工程局總理高雲崑ト如意
公司代表吉祥(吉徳純)トノ間ニ締結セラレタル呼海線中
松浦、呼蘭間工事請負契約書甲乙訳文各一通別紙ノ通送付
ス(付属第一号)該契約訳文ハ露支契約文ヲ対照シテ当地
満鉄事務所ニ於テ翻訳セラレタルモノナリ

「オストロウーモフ」ハ如意公司代表吉祥ヨリ無期限全部
委任ノ委任状ヲ受ケ該委任状ハ二月一日當地公証人「エ
ム・フトロフ」事務所ニ於テ公証セラレタリ(往電第四六

ル故如意公司ヨリ下請負ヲ引受クルニ当リ必要ナル保証金
ノ支払ヒニ差支ヲ生シ之レカ為満鉄ヨリ右ノ借款ヲ為シタ
ルモノナリト云フ但シ「オ」ハ當地滯在中ノ大藏理事ニ對
シ同人ハ米國領事ヨリ米國資本利用方勧説セラレタルコト
アルカ故ニ若シ日本側ノ援助ヲ得サル時ハ勢ヒ米國側ニ賴
ラサルヲ得スト述ヘタル由ナリ

滿鉄松岡理事等ハ前頭契約調印セラレタル以上此際昨年四
月松岡理事ト黒龍江省長于鵬興トノ間ニ内々協議ヲ進メラ
レシ哈爾賓墨爾根間鐵道借款契約ヲ成立セシメ其借款ヲ以
テ右請負契約及客年十月満鉄ノ材料供給契約(客年十月十
六日付機密第一七一号拙信)ノ代金支払ニ充当セントスル
意向ニテ二月九日松岡理事等々哈爾賓墨爾根間鐵道工事請負契約書
務府長、張文渉員等トハ其心持ニテ会談シタル由尤モ右借
款契約成立ノ上ハ四國財團ノ參加ニ関シ適當ノ措置ヲ執ル
答ナリト云フ

賓黒鐵道問題ニ關シテハ從來種々ノ経緯アリタルモ客年拙
電第一六五号ノ如ク大体張作霖ノ威力カ黒龍江省ニ及フ間
ニ解決スルヲ便利トスヘク張家ノ地盤モ何時動搖ヲ來スヤ

計リ知リ得サル今日ニ於テハ成ル可ク早ク解決ヲ促進スル

号中「オボルスク」ノ談話ニハ誤アルニ付茲ニ訂正ス)
「オストロウーモフ」ハ俊敏有能ナル丈ケ其行動ニハ注意
ヲ必要トスヘク其參加力終局ニ於テ果シテ我方ニ利益アル

結果ヲ齊ラスヘキヤ掛念ナキニアラサルモ(客年十一月十
九日付機密第一九六号拙信参照)ト同人ハ兎ニ角深ク吳俊

陞ニ喰入リ吳モ亦「オ」ニ対シ何等カノ援助ヲ与ヘントシ
既ニ工事下請契約ヲ為セルコト(「オ」カ工事引受ケニ決

定シタル結果温呼海鐵道技師長ハ本月十日罷免セラレタル
カ右ハ「オ」カ吳ニ接近セル一例ト見得ヘシ)〔露西亞側

殊ニ東支側ハ日本及満鉄側ニ対シ頗ル神經過敏ナルカ故ニ
直接満鉄ニ於テ工事ヲ引受クルヨリハ「オ」ヲシテ工事ヲ
請負ハシムル方事業進捗上利便多カルヘキコト〔「オ」ノ
手腕性質及吳トノ関係ニ鑑ミレハ此際「オ」ヲ除外スルコ

トハ事業遂行上障碍ヲ來タス惧アルコト(「オ」ハ既ニ鉄
道線路測量ノ準備ヲ為シ居ルカ故ニ工事開始ニ便利ナルコ
ト等ノ諸種ノ事由ヲ考察スレハ此際「オ」ノ下請契約ヲ認

ムルハ止ムヲ得サルヘク満鉄側モ「オ」ヲ利用スル意味ニ
テ本月初メ測量費ノ名目ノ下ニ二万五千元ヲ貸与シタリト
聞ケリ「オ」ハ目下當地ニ事務所ヲ設クルモ資金ニ欠乏セ

必要アル所現今ノ支那ノ政情及當地方ノ事態ヨリ按スレハ
大正十三年賓黒鐵道「シンヂケート」契約ノミニ頼リテハ
何時実現ヲ見ルヤ見當モ付カサルノミナラス同契約ハ鐵道
軌道其他ニ於テ我方ニ不便ナル点モアルカ故ニ以後ノ方針
トシテハ右契約ノ始末ヲ付クルト同時ニ大體前頭松岡案ニ
従テ進ム方可然乎ト思考ス

因ニ今回如意公司ノ請負契約ハ松浦呼蘭間ニ限ラレタル
カ松浦綏化間工事費予算ハ約五百萬元(付属第二号)松
浦海倫間ハ約九百萬元ヲ要スト謂フ

付 属

第一号 甲号 松浦呼蘭間鐵道工事請負契約訳文

乙号 同 架橋工事請負契約訳文

第二号 呼海鐵道松浦綏化間工事費予算

本 信 写 送付先 在支那公使 在奉天總領事 在齊々哈
爾領事

(付属書一)

松浦・呼蘭間鐵道工事及ビ同架橋工事請負契約書訳文

人（以下請負者ト称ス）ハ双方同意ノ上鉄道建設工事請負
契約ヲ締結ス

其ノ条件左ノ如シ

一、工程局ハ本鉄道松浦呼蘭間ノ工事ヲ工程局ノ承認ヲ経
テ請負者ノ作成セル工費見積書所載価格ノ範囲内ニ於テ

全部如意公司ニ請負ハシム其ノ種類左ノ如シ

イ、線路ノ測量、図面及計画書ノ編成

ロ、道床ノ工事

ハ、線路ノ敷設及工事引継前ニ於ケル工事ノ保存

ニ、線路付属物

ホ、鉄道電信電話

ヘ、駅ノ給水塔

ト、駅付属工事

備考 土地ノ買収及車輛等ノ購入ハ工程局ニ於テ直接之
ヲ行ヒ請負者ハ必要ナル材料ノ価格ヲ工程局ニ通

知スヘシ

二、請負者ハ其請負ニ関シ製作セル各種図面仕様書、設計
書及工事見積書ヲ第三条所定ノ期限迄ニ工程局ニ提出シ
其ノ承認ヲ受ケ各件ニ付調印シタル後ニアラサレハ工事

況ニ鑑ミ変更シタルトキ

五、器具及食料品ノ準備購買運搬等ニ關シテハ總テ請負者
責任ヲ以テ之ヲ行ヒ建設材料ハ工程局之ヲ購入シ請負者

ト協定セル期限内ニ哈爾賓ニ於テ請負者ニ供給スヘキモ
ノトス

六、工程局カ期日ニ至リ若シ建設材料ヲ供給スル能ハサル
トキハ請負者ハ許可ヲ經代ツテ其購入ヲ為スコトヲ得

七、工程局ハ地方官憲ニ建設材料ニ対スル一切ノ地方税、
木税等ノ免除方ヲ申請スヘシ将来工事完了後請負者ハ一
切ノ使用器具ヲ工程局ニ交付スルヲ得工程局ニ於テ若シ
使用セントスルモノアルトキハ双方ノ協定価格ヲ以テ之
ヲ買取スルヲ得

備考 工程局ハ今後東省鉄路南滿鉄道ニ對シ鉄道用材料

運送特別取扱規定ニ依ツテ必要材料及工夫ノ輸送
ヲ請求ス

八、工程局ハ請負者ヲシテ遲滞ナク工事ヲ完成セシメムカ
為保証金ノ納入ヲ免除シ且認可セラレタル見積書ニ基キ
請負金支給表ヲ作製シテ工程局ニ提出シ工程局ハ該表ニ
基キ工事着手ノ際請負者ニ百分ノ四〇ノ前払ヲナス工事

ニ、工事着手ノ際請負者ニ百分ノ四〇ノ前払ヲナス工事
ニ、工夫ノ衛生ハ能フ限り考慮シ若シ疾病ニ罹リタルモ

ニ着手スルヲ得ス

三、測量ハ本契約調印後着手スルモノトス松浦呼蘭間ノ總
テノ設計書及工費見積書ハ本測量完了後一ヶ月以内ニ製

作スヘク本年二月十五日ヲ越ユルヲ得サルモノトス請負
者ハ各工事ニ對スル計画書承認後直チニ工事ノ準備ニ取
掛リ地方ノ氣候カ工事ヲ開始シ得ルニ至ルヲ待チ速ニ工
事ニ着手スヘシ松浦呼蘭間ノ土工工事ハ七月一日迄ニ完
了スヘキモノトス軌条ハ軌道用品到着後土工終了ノ情況

ニ從ヒ直ニ順次敷設シ以テ材料ノ運搬ヲ容易ナラシムヘ
シ工程局ノ已ニ購入セシ軌条其付属品、枕木、転轍器、
信号器ハ請負者ト協定セシ期日支給使用セシムルモノト
ス敷設材料及工夫ノ運搬ニ使用スル機関車輛ハ定メラレ

タル期間中無料ニテ貸与ス

四、請負工事ハ遅クモ民国十五年七月一日迄ニ完全ニ全部
ノ工事ヲ竣工セシムヘキモノトス

但シ左記ノ事情アルトキハ此ノ限りニアラス

(一)天災又ハ請負者ニ於テ抗拒スヘカラサル事由アルトキ
(二)第八条ノ規定ニ從ツテ支払ヲナサルトキ

(三)工程局ノ許可ヲ受ケ各工事ノ竣工期ヲ全工事進捗ノ情
況ニ依リタルトキハ双方ノ協定価格ヲ以テ之ヲ算入ス

九、請負者各工事ヲ完成シタルトキハ工程局ニ之ヲ報告シ
工程局ハ十日以内ニ委員ヲ派遣シテ之カ検査ヲナス検査
委員工事ノ検査ヲ終リタルトキハ請負者ニ証明書ヲ交付
シ明細書ヲ作製ス該書ニハ縦断面図等ニ付實際上ノ工事
ト設計書上ノ工事トノ比較ヲナスモノトス但シ引繼前既
ニ完了セシ工事及材料ニ付テハ請負者之カ保存ノ責ニ任
スルコト勿論ナリ

一〇、工程局ハ委員ヲ派遣シ工事ヲ監督スルノ権利ヲ有ス
若シ認可セシ図面及設計書ト相違スル処アラハ請負者ヲ
シテ之ヲ改修セシムルカ或ハ第十四条ノ規定ニ依リ之ヲ
処置スルコトヲ得

一一、請負者ハ専門技師ヲ選任シ委任状ヲ付与シ専ラ工事
一切ノ進捗監督ニ当ラシムヘシ

一二、工夫ノ衛生ハ能フ限り考慮シ若シ疾病ニ罹リタルモ

九 東三省鉄道問題 一〇七

一三二二

ノアルトキハ請負者ノ費用ヲ以テ治療セシムヘキモノトス

一三、若シ工事地方ニ於テ軍事行動アルカ又ハ其他ノ原因ニ依ツテ工事ヲ妨害サレタルトキハ工程局ハ請負者ノ實際支出セル工事費ニ対シ相当ノ補償ヲ与フルモノトス

一四、若シ工程局ニ於テ請負者ノ請負工事ニ付堅実ナラスト鑑定シタルトキハ請負者ハ之カ一切ノ責ニ任シ仕様書ニ基キ其賠償ヲ為シ工程局ニ何等ノ損害ヲモ与フル可ラス

ス若請負者全工事ノ完了期ヲ遲延シタルトキハ工程局ハ請負者ニ督促状ヲ発シ請負者督促状ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ完了スルコト能ハサルトキハ未完了工事ノ価格ノ百分ノ三〇ノ罰金ヲ課シ更ニ第二回ノ督促状ヲ発シ更ニ三十日以内ニ其工事ヲ終了セサルトキハ同様ニ更ニ百分ノ三〇ヲ罰シ最後ニ第三回ノ督促状ヲ発シ尚十日以内ニ工事ヲ完了セサルトキハ工程局ハ請負者工事ヲ完成スルノ能力ナキモノト認メ契約ヲ解除ス但シ既ニ完了セシ工事ニ對シテハ前期罰金額ヲ控除シタル後工費見積書ノ規定ニ基キ公平ニ仕扱ヒヲナス其ノ購入材料及支出セシ立替金ハ實際価格ニ付支給ス

一五、若シ請負者期限前ニ工事ヲ完了セシメタルトキハ工程局ハ適宜賞与金ヲ支給ス

一六、工程局ハ管轄地方官憲ニ對シ工事ヲ保護シ又工夫ニ護照ヲ支給シ之力保護ヲナス様申請スヘシ

工夫若シ衝突シタルトキハ請負者之ヲ工程局ニ送リテ懲戒ヲ求メ或ハ地方官憲ニ輸送シテ処分ヲ申請スルコトヲ得

一七、沿線工事ニ必要ノ車輛ハ總テ請負者工事完了前之ヲ借用ス

一八、請負者本工事ヲ請負ヒタルトキハ確實ナル保証人ヲ立テ若シ契約ヲ履行スル能ハサルカ又ハ請負者ニ對シ既ニ多額ノ費用ヲ支出シ其殘額力控除スヘキ罰金額ニ足ラサルトキハ保証人ニ於テ之カ一切ノ責ニ任スヘキモノトス

一九、本工事ノ保険期限ハ一ヶ年トシ保険保証書ハ別ニ之ヲ定ム

但シ天災其他抗拒ス可ラサル事由アルトキハ此限りニ非ス

呼海鉄路工程局總理 高雲崑

如意公司 代理 吉祥

中華民国十五年一月三十日

如意公司

ヲ締結ス

其ノ條件左ノ如シ

第一款
 (別紙)
 呼海鉄道松呼間建設工費概算

イ、土工費	一四九・三〇〇大洋
ロ、軌条敷設費及引継迄ノ保全費	四一・二〇〇
ハ、線路付属物費	一・三一〇
ニ、鐵道電信電話建設費	六・四五〇
ホ、駅給水塔工事費	二・五九〇
ヘ、駅付属物工事費	一、〇四〇
合計 (材料ヲ除ク)	二〇一・八七〇

第二款

測量及図面作製費一糸ニ付八〇元
 付属第一号ノ乙
 第二款
 契約書

契約人呼海鉄路工程局(以下工程局ト称ス)如意公司代表人(以下請負者ト称ス)ハ双方同意ノ上架橋工事請負契約

シ軌条其付属品枕木・転轍器、信号機ハ請負者ト協定セ
シ期日ニ支給使用セシムルモノトス敷設材料及工夫ノ運
搬ニ使用スル機関車輛ハ定メラレタル期間中無料ニテ貸
与ス

三、請負者本工事ノ請負ヲ為シタルトキハ其製作セル各種
図面仕様書、設計書、材料費、見積書ヲ第二条所定ノ期
限迄ニ工程局ニ提出シ其承認ヲ受ケ各件ニ付キ調印シタ
ル後ニアラサレハ工事ニ着手スルヲ得ス

四、請負工事ハ遲クモ民国十五年七月一日迄ニ完全ニ全部
ノ工事ヲ竣工セシムヘキモノトス但シ左記ノ事情アルト
キハ此ノ限りニアラス

〔一〕天災又ハ請負者ニ於テ抗拒スヘカラサル事由アルトキ

〔二〕第七条ノ規定ニ従ツテ支払ヲナサルトキ

〔三〕工程局ノ許可ヲ受ケ各工事ノ竣工期ヲ全工事進捗ノ情
況ニ鑑ミ変更シタルトキ

五、請負者本項橋梁ノ請負ヲナシタルトキハ最モ堅実ナル
材料ヲ撰択購入シ其ノ材料ノ到着シタルトキハ遲滞ナク
工程局ノ検査ヲ受クヘキモノトス若シ古材料或ハ朽壊セ
ル材料アルトキハ之ヲ摘出シ請負者ヲシテ新ニ良材ヲ購

入補填セシムヘク請負者ハ口実ヲ設ケテ之ヲ拒ムコトヲ
得ス

六、工程局ハ地方官憲ニ建築材料ニ対スル一切ノ地方税、
木税等ノ免除方ヲ申請スヘシ将来工事完成後請負者ハ一
切ノ使用器具ヲ工程局ニ交付スルヲ得工程局ニ於テ若シ
使用セントスルモノアルトキハ双方ノ協定価格ヲ以テシ
ヲ買取スルヲ得但シ外國或ハ外省ヨリ購入スル材料ニ對
シテハ省政府ノ手ヲ経テ之カ免税方ヲ申請ス但シ其許可
ヲ得ル能ハサルトキハ其支払フヘキ關稅及稅捐ハ請負者
ノ負担ニ帰ス

備考 工程局ハ今後東省鐵路南滿鐵道ニ対シ鐵道用材料
運送特別取扱規定ニ依ツテ必要材料及工夫ノ輸送
ヲ請求ス

七、工程局ハ請負者ヲシテ遲滞ナク工事ヲ完成セシメムカ
為メ保証金ノ納入ヲ免除シ且認可セラレタル見積書ニ基
キ請負金支給表ヲ作製シテ工程局ニ提出シ工程局ハ該表
ニ基キ工事着手ノ際請負人ニ百分ノ四〇ノ前払ヲ為ス工
事ノ一半ヲ終リタルトキ更ニ百分ノ四〇ヲ支給シ爾余ノ
百分ノ二〇ハ本契約書第一条記載ノ全工事完了シ検収ヲ

終リタルトキ各工事ニ付キ清算ヲ為スモノトス

一切ノ材料費ハ哈爾賓ニ於テ流通スル現洋ニ依ツテ計算
スルモノトス請負者ハ割増金等ヲ要求スルヲ得ス

八、請負者各工事ヲ完成シタルトキハ工程局ニ之ヲ報告シ
工程局ハ十日以内ニ委員ヲ派遣シテ之カ検査ヲ為ス検收
委員工事ノ検査ヲ終リタルトキハ請負者ニ証明書ヲ交付
シ明細書ヲ作製ス該書ハ縱断面図等ニ付キ實際上ノ工事
ト設計書上ノ工事トノ比較ヲ為スモノトス但シ引繼前既
ニ完了セシ工事及材料ニ付テハ請負者之力保存ノ責ニ任
スル事勿論ナリ

九、工程局ハ委員ヲ派遣シ工事ヲ監督スルノ権利ヲ有ス
若シ認可セシ圖面設計書ト相違スル所アラハ請負者ヲシ
テ之ヲ改修セシムルカ或ハ第十三条ノ規定ニヨリ之ヲ処
置スルコトヲ得

一〇、請負者ハ専門技師ヲ選任シ委任状ヲ付与シ専ラ工事
一切ノ進捗監査ニ當ラシムヘシ

一一、工夫ノ衛生ハ能フ限り考慮シ若シ疾病ニ罹リタルモ
ノアルトキハ請負者ノ費用ヲ以テ治療セシムヘキモノト
ス

一一〇、請負者ハ委員ヲ派遣シ工事ヲ監督スルノ権利ヲ有ス
若シ認可セシ圖面設計書ト相違スル所アラハ請負者ヲシ
テ之ヲ改修セシムルカ或ハ第十三条ノ規定ニヨリ之ヲ処
置スルコトヲ得

一一一、工夫ノ衛生ハ能フ限り考慮シ若シ疾病ニ罹リタルモ
ノアルトキハ請負者ノ費用ヲ以テ治療セシムヘキモノト
ス

一五、工程局ハ管轄地方官憲ニ対シ工事ヲ保護シ又工夫ニ
護照ヲ支給シ之カ保護ヲナス様申請スヘシ

工夫若シ衝突シタルトキハ請負者之ヲ工程局ニ送リテ懲
戒ヲ求メ或ハ地方官憲ニ転送シテ処分ヲ申請スルコトヲ
得

一六、沿線工事ニ必要ノ車輛ハ總テ請負者工事完了前之ヲ
借用ス

一七、請負者本工事ヲ請負タルトキハ確実ナル保証人ヲ立
テ若シ契約ヲ履行スル能ハサルカ又ハ請負者ニ対シ既ニ
多額ノ費用ヲ支出シ其殘額カ控除スヘキ罰金額ニ足ラサ
ルトキハ保証人ニ於テ之カ一切ノ責ニ任スヘキモノトス

一八、本工事ノ保険期限ハ五ヶ年トシ保険保証書ハ別ニ之
ヲ定ム

但シ天災其他抗拒スヘカラサル事由アルトキハ此ノ限り
ニアラス

呼海鉄路工程局總理	高雲崑
如意公司代表	吉祥
如意公司	

中華民国十五年一月三十日

土工	五六〇、〇〇〇元
木橋	二六〇、〇〇〇
車輛	一、二〇〇、〇〇〇
軌条	一、二〇〇、〇〇〇
電信電話	一〇〇、〇〇〇
停車場	三〇〇、〇〇〇
其他	三六〇、〇〇〇
合計	三、九八〇、〇〇〇
土地購買	(三五〇、〇〇〇元一畝ニ付十五元ノ割)
工場	別二
機関車	
事務所	

即チ哈爾賓綏化間(一一三基米)四、〇〇〇、〇〇〇元

土地購買 (三五〇、〇〇〇元一畝ニ付十五元ノ割) 一、
〇〇〇、〇〇〇元

総計 五、〇〇〇、〇〇〇元

入江

大正十五年二月二十四日午後八時三十分発
二十五日午前一時二十五分着

一〇七二 二月二十五日 ヨリ

木村亜細亜局長宛

賓黒鉄道問題ニ関スル松岡滿鉄理事ト露亞銀

行代表グラーベトノ会談ニツキ通報ノ件

付屬書

二月二十四日松岡滿鉄理事發入江滿鉄東京支社

長事務取扱宛電報

右同件

大正十五年二月二十五日

南滿州鉄道株式会社東京支社

支社長事務取扱理事 入江 海平(印)

木村亜細亜局長殿

拝啓呼海、賓黒鉄道ニ関シ弊社松岡理事ヨリ來電有之候間
該電写一通茲許御送付申上候

敬具

(付屬書)

二月二十四日松岡滿鉄理事發入江滿鉄東京支社長事務取扱宛
電報

右同件

入江理事宛 松岡理事發

九 東三省鐵道問題 一〇七

(付屬書一)

付属第二号

呼海鉄道温技師長調査

(呼海鉄道溫技師長調查)

露亞銀行奉天駐在代表「グラーベ」氏本日來訪呼海鐵道問
題ニ関シ時期到来セハ滿鉄ハ露亞銀行ト協力「コオペレー
ト」スヘキ旨小田切正金重役ヨリ「ドホイヤー」ヘ返事
(昨年「ドホイヤー」ヨリ小田切氏ヘ賓黒鉄道問題ニ関シ
談話シタルコトニツキ)シタル趣ヲ以テ「ドホイヤー」ヨ
リ自分「グラーベ」ニ対シ当地ニテ滿鉄ニ向ヒアル時期ト
ハ如何ナル時期ナルカ又協力トハ如何ナル方法又ハ意義ニ
ヨル協力ナルカ相談セヨト訓令シ來レル旨本職ニ申出テ賓
黒線全般ノ借款権問題ニモ言及シタルニツキ本職ハ之ニ對
シ滿鉄ノ関スル限りハ昨年呼海鐵道建設ニ関シ黑龍江省官
憲ノ求ムル儘ニ一小距離ノ材料供給契約ヲ結ヒタル迄ノコ
トニシテ賓黒鉄道借款ノ如キ問題ニハ何等交渉ヲ有セス此
ノ滿鉄ノ立場ハ昨年暮本職在京中外務當局ニ対シ明ニシ置
キタリ而シテ本職ノ知レル處ニテハ外務省ヨリ小田切氏ニ
対シ賓黒鉄道借款権ノ譲渡ノ相談ノ如キハ當時ノ支那政情
ノ下ニ在シテハ談合ヲ進ムル由ナキモ以來時期至ラハ相談
スルコトモアルヘシ(マイトノ英語ヲ使用シ置ケリ)トノ

意味ノ返電ヲ発シタル筈ナリ此ノ点ニ就テ若シ「ドホイヤー」ヨリ話ヲモチカケラル向アラハ從来ノ行懸リ上正金銀行ナルヘシ滿鉄ハ曩ニモ述ヘタル通リ単ニ一小区分ニ対スル材料供給ト云フ位ノ関係ニ止リ全般ノ借款問題ニハ交渉ヲ持タス小田切氏ヨリ「ドホイヤー」ヘノ返事ノ意味ハヨク諒解シ得サルモ或ハ右借款権譲渡問題ト呼海鉄道材料供給問題ノ二者ニツキ何等カ混同又ハ誤解ヲ生シタルニアラサルカト輕ク応酬シ置ケリ

以上外務省ヘ御伝達乞フ本電参考トシテ北京芳沢公使及小田切正金重役ヘ転電シ置ケリ

一〇七三 三月五日 幣原外務大臣ヨリ
在ソ連邦田中大使宛（電報）

寶黒本線ノ問題及び呼蘭線土木工事ノ現状

ソキ通報ノ件

第五三号

貴電第八六号ニ閲シ

齊齊哈爾、黒河線ニ付テハ「イワノフ」辺カ洮昂鐵道ノ延長防止ノ意味合ヲ以テ何等画策シ居ルコトアルヤモ知レサルモ滿鉄側トシテハ支那側ノ切望モアリ洮昂線ノ延長トシ

酬シ置カレ度

一〇七四 三月三十一日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

寶黒鐵道問題ニ關スル露亞銀行ヨリ横浜正金

銀行宛照会ニソキ報告ノ件

別 電 四月一日在中国芳沢公使發幣原外務大臣宛電報

第11111号

（四月一 日接受）

客年貴電第七五八号ニ基ク露亞側ニ対スル回答（二月十六日付機密第一九一号往信参照）ニ付今回露亞銀行ヨリ正金シ來リタル趣ニテ同支店ヨリ其回答振ニ付頭取宛問合セタル旨報告アリタリ

（別 電）

四月一日在中国芳沢公使發幣原外務大臣宛電報第二11111号

寶黒鐵道問題ニ關スル露亞銀行ヨリ横浜正金銀行宛照会

第11111号

（四月一 日接収）

Russo-Asiatic Bank would like to point out that, as line Harbin-Hulan constitutes first section of Pin-

テ「チチハル」省城迄ハ機會ヲ見テ到達シタキ希望ナルモ差当リ手ヲ付ケ居ラス尤モ「チチュリーン」ハ哈爾賓ヨリ呼蘭 Hulan 級化 Suihwa 海倫 Hailun 墨爾根 Mergen ワ経度ノ内約成立セル由聞込昨年秋滿鉄ハ右牽制ノ目的ヲ以テ同対岸ヨリ呼蘭ニ至ル十數哩ノ建設材料供給方吳俊陞トノ間ニ契約ヲ了シタルニ過キス尚ホ呼蘭線土木工事ハ最近支那人請負契約ヲ締結シタルカ内実「オストロモフ」カ中心人物タリ右契約ハ四十余万元ノ意外ナル廉価ナル上ニ請負者ハ資本乏シク結局資本融通方滿鉄ニ申出テ來ルヘク終ニ「オ」トノ義理合上多少融通スルコトアリトモ滿鉄カ表面ニ立ツコトハ無之筈ナリ尤モ寶黒本線ハ經濟上重要ノ価値アルコト御承知ノ通リナルニ付将来大ニ考慮スヘキ問題ナレトモ差当リハ「イワノフ」ノ計画ヲ阻止スルニ止マレリ今日迄ノ事情ハ右ノ通リナルカ事態發展如何ニ依リ材料供給契約実行セラルベキニ付右ノ内情御含ノ上可然先方ト応

Hei Railway, they consider it more equitable to come to an agreement with South Manchurian Railway Co., on all operations regarding construction of Pin-Hei Railway, or a part of same, and would therefore propose to exchange views conjointly with Yokohama Specie Bank on question of supplying materials with a view to conforming such operations to Article 16 of original Contract of 1916 and Pin-Hei Syndicate Agreement of 1924, awaiting your reply, etc., etc.

一〇七五 四月十七日 幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛（電報）

寶黒鐵道借款問題ニ關スル横浜正金銀行ヨリ

露亞銀行ヘノ回答額額指示ノ件

第一〇九号

貴電第二11111号ニ閲シ

本件ニ關スル滿鉄側ノ意向ハ客年往電第七五八号ノ通りナル處他方寶黒鐵道借款契約ハ支那政府ニ於テハ殆ト之ヲ認メ居ラサルノミナラス右ハ露亞支那中央政府間ノ契約ナル

ヲ以テ該契約上ノ権利擁護ノ為ナラハ露亞自ラ北京政府ニ交渉スヘキモノニシテ満鉄側トシテハ之ニ干与スヘキ限ニ

非ス就イテハ今回露亞側申出ニ対シテハ改メテ回答スルヲ要セサルヘキモ先方ヨリ強イテ回答ヲ求ムルニ於テハ貴官ハ正金ヲシテ露亞側ニ対シ左ノ趣旨ニ依リ回答セシムル様

御取計相成度
〔1〕本件ニ関シ満鉄ニ問合セタル處同社ニ於テハ三月三十日付「ベルチエ」來翰ニ指摘スルカ如ク賓黒鐵道ニ関スル露亞ノ権利譲受ニ付主義上同意シタルコトナク本年二月四日小田切ヨリ露亞側ニ送付シタル口上書ニ依ルモ明ナル通り單ニ追テ支那政情安定ノ時期ヲ俟チタル上本件譲受ニ付考慮スヘキヤ否ヤヲ相談致度シト云フニ過キス

〔2〕又今般露亞ノ申出ニ係ル賓黒鐵道借款契約上ノ権利ナルモノハ露亞支那政府間ノ契約ニ基クモノナルヲ以テ右権利実行又ハ擁護ニ關シテハ露亞トシテハ直接且単独ニ北京政府ニ申入レラルルコト適當ナルヘク此際右ニ付満鉄ニ対シ何等提議アルトモ同会社ニ於テ處理シ得サルモノト認メラルトノ趣ナリ

ノ回答振リニ付伺出ノ次第アリタリ就テハ右事実ノ有無ト共ニ何分ノ儀回電有度

一〇七七 五月四日

木村亞細亞局長
入江満鉄東京支社長 会談要領

呼海鐵道及ビ索倫鐵道ノ對露關係ニ及ボス影

響ニ關スル件

付 記 五月一日外務省調書

呼海鐵道ニ關スル件

大正十五年五月四日木村亞細亞局長入江満鉄東京
支社長会談要領

大正十五年五月四日木村亞細亞局長ハ入江満鉄理事ノ來省ヲ求メ同局長ヨリ先ツ

一、呼海鐵道問題ニ關シ別添（呼海鐵道ニ關スル件調書）

ノ趣旨ヲ述ヘタル上現ニ在本邦「コップ」露國大使ノ如キハ滿州地方ニ於ケル鐵道敷設問題ニ關シテハ予メ日露

両國間ニ充分意思ノ疎通ヲ見タル上之ヲ實行スルコトト致度旨申越シ居レルモ當方ニ於テハ右ハ結局滿州ニ於ケル勢力範囲ヲ定ムルコトトナルヲ以テ之ニ応セサル次第

ナルカ呼海鐵道材料供給契約ノ如キモ東支側カ之ニ關与致度旨申越シ居レルモ當方ニ於テハ右ハ結局滿州ニ於ケル勢力範囲ヲ定ムルコトトナルヲ以テ之ニ応セサル次第

一〇七六 四月二十二日 在中國芳次公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）
呼蘭鐵道第二回ノ建設材料購入問題ニ關シ露
亞銀行ヨリ正金銀行ニ申出ノ件

第三一二号

四月二十二日露亞支配人小田切ヲ來訪シ昨日入手セシ奉天支店「グラベ」ヨリノ報告ニ依レハ洮齊鐵道ノ日本支配人ハ呼蘭鐵道ノ「デレクター・ゼネラル」（或ハ「オストロモフ」）ナラントノコトナリト共ニ奉天大連等ニ來リ呼蘭鐵道第二段ノ建設材料約二百余萬元ノ購入又ハ借入方協議中ノ由ナルカ同鐵道第一段ニ關スル問題ハ別トシテ第二段ノ建設ノ為必要材料ヲ準備シツツアルコトハ露亞ノ方面ヨリ見ルモ又「シンヂケイト」ノ立場ヨリ考フルモ之ヲ默視スル能ハス若シ之ヲ默認ストキハ他日第三段及第四段モ亦同様ノ手段ニテ進行スルコトトナルヘクスケテハ關係各方面共同ノ利益ヲ有スル賓黒鐵道ノ前途ニ対シ重大ノ損害ヲ與フルニ至ルヘキ旨ヲ述ヘ之ニ対シ小田切ヨリ右ハ初耳ニテ何等意見ヲ述フル能ハサルモ事實トセハ「シンヂケイト」トシテ何等対策ヲ講セサル可ラサル次第二付一応事實ヲ取調フ可キ旨回答シ置キタル趣ニテ小田切ヨリ當方ニ対シ其

スルヲ妨クレハ其目的ハ達セラレタルモノニシテ此際満鉄側トシテ夫以上之ニ關係スルハ不必要ナルノミナラス之ヲナサハ益々露國側ノ感情ヲ刺激スルニ至ルヘシ又仮ニ支那側ニ於テ進ンテ呼海線布設ニ着手セントスルカ如キ場合ニハ先ツ露亞側ト協同シテ右ニ参加スヘク或ハ借款團ニ申入レテ其ノ參加ヲ求ムルモ可ナリ尤モ英國ノ如キハ之ニ応スルコト無カルヘク米國ハ或ハ參加スヘキモ然ル場合ニハ満鉄トシテモ財政苦シキ今日却テ好都合ナル次第二非スヤ又從來満鉄側ノ満蒙鐵道布設予定計畫ニ於テハ呼海線ハ第二期計畫トサレ居タルニモ拘ラス此際之ヲ實行セラルニ至レルハ如何ナル次第ナリヤ満鉄ニ於テハ社長ヲ初メ右予定計畫ニ從ハレサルヤニモ認メラルル處或ハ今回ノ計畫ハ單ニ大藏理事辺ニ於テ「オストロモフ」ニ引入レラレタル結果ナリヤ乍然「オストロモフ」ハ甚々信頼シ難キ人物ナルノミナラス其計畫モ杜撰ナリ現ニ「オ」ニ対スル援助ノ如キモ松岡理事北京ヨリ大連ニ帰来シ協議ノ結果結局測量費位ヲ出スコトシテ一応打切りトシタル筈ナリ然ルニ今回突然第二段契約ニ

ニスルモ右ハ対露亞銀行関係殊ニ対露關係ニ重大ナル影響ヲ及ホスヘキ次第ナリ

他方単ニ經濟上ノ問題ヨリ云フモ本件鐵道カ滿鉄ヲ潤スヤ否ヤ甚疑シク結局不徹底ナル東支ノ給養線トナリ終ルニ非スマト思考セラル故ニ本鐵道ハ之ヲ延長スレハスル程東支線ノ利益ヲ増大スルモノト認メラルヲ以テ当初ノ計画通り東支側ノ五呎軌幅計画ヲ阻止シ四呎八吋半軌幅鐵道布設ニ成功シタル場合ニハ之ニテ止メ置キ夫以上ニ閔与スヘキニ非ス從ツテ四月二十九日安広社長來電中「先方ヨリ懇請アリタルトキ会社ニ於テ之ヲ拒絶スレハ先方ハ東支鐵道ニ交渉スヘク然ルトキハ折角会社力第一段松呼問ノ施設ニ關係シタル趣旨ヲ没却ス」トアルハ何ヲ意味スルヤ了解ニ苦シム所ナリ又滿鉄ニ於テハ一度四呎八吋半ノ軌幅ヲ有スル鐵道ヲ布設スレハ永久ニ露國側ノ策動ヲ牽制シ得ルモノト思考セラルヤモ知レサルモノ來軌幅ノ如キハ容易ニ拡張シ得ルモノナリ旁ミ呼海線ノ如キモ單ニ東支側ヲ牽制スルノ「タクティックス」トシテ用フルニ止ムヘキナリ

以上ノ次第アルニ付滿鉄ニ於テモ此際暫ク本件第二段ニ

霖ニ對シテモ其ノ苦境ニアル場合之ヲ助クルハ可ナルモ恩威並ヒ施スヲ要スルモノナリ

等述ヘタルニ入江理事ハ右ニ對シ

(一)ニ對シテハ外務省ヨリ安広社長ニ對シ電報セラルルニ添ヘテ入江理事ヨリモヨク外務省ノ意向ヲ説明シ尚満鉄ニ於テ從来ノ方針ト異ル方針ヲ立ツル場合ニハ予メ外務省ニ協議スルヲ要スヘキ旨社長宛電報スヘキモ大平滿鉄副社長モ両三日中ニ上京スヘキニ付同副社長ヨリモ從来ノ經緯御聽取相成度シ

(二)ニ付キテハ直ニ本社ニ電報シ事實ヲ取調フヘシ

(三)ニ閔スル御話ノ趣旨ハ至極適切ナリト思考ス等答ヘテ辭去シタリ

(大正十五年五月四日岡崎記)

（付記）

五月一日外務省調書

呼海鐵道ニ閔スル件（極秘）

一、大正十五年四月十三日安広滿鉄社長ハ突然木村亞細亞

局長ヲ來訪シ今回滿鉄ニ於テハ黒龍江省側ノ要求ニ応シ呼海鐵道材料供給契約ニ基ク鐵道材料ヲ即時供給スルコ

関スル契約ノ實行ヲ差控ヘラル様致度右ニ付テハ直ニ當方ヨリ安広社長ニ電報スル筈ナリ

二、索倫鐵道ニ閔シ四月二十二日張作霖ハ吉田總領事ニ對シ二千萬円乃至四千万円ノ借款ヲ申入レタル趣ナルカ満鉄ノ計算ニ依レハ索倫鐵道建設費（車輛費ヲモ含ム）トシテ単ニ一千七十万円ヲ予定セルニ過キス何レニスルモ本件ニ閔シ満鉄側ヨリハ何等ノ報告ニモ接シ居ラサルカ張作霖カ何等満鉄ニ計ルコトナクシテ本件ノ如キ計画ヲ持チ出ス筈ナシト認メラル處満鉄ニ於テハ本件ニ付今迄何等張ヨリ相談等ヲ受ケタルコトアリタル次第ナリヤ尚索倫鐵道ノ如キハ寧ロ不急ノ事業ナルノミナラス「コップ」大使ノ如キハ又々日本側ヨリ不意打ヲ受ケタリトテ苦情ヲ申出ツヘク旁ミ對露關係ヨリ見ルモ面白カラサル次第ナルニ付此際本件計画ヲ進行セシムルコトニハ大臣及次官ニ於テモ反対ナリ

三、又寒心ニ堪ヘサルハ本年三月十日開催洮昂、四洮、滿鐵三線連絡會議不調ノ際ニ於ケル洮昂線代表ノ態度ナリ斯ノ如キ場合ニハ支那側ニ對シ断乎タル態度ヲ示スヲ要ス支那側ヲシテ我カ恩ニ馴レシムルハ最モ不可ナリ張作

トトシタル旨ヲ述ヘ局長ニ於テハ從来ノ經緯（後述二、参照）ニ鑑ミ當然右ハ呼海線ノ第一段呼蘭松浦間十數哩ノ鐵道ヲ指スモノト諒解シ且安広社長ニ於テモ何等新契約タルコトヲ述ヘサリシ處其ノ後四月二十二日在支公使ヨリノ報告ニ依レハ露亞側ハ正金小田切ニ對シ満鉄ハ呼海鐵道第二段ノ計画ニ付協議中ノ由ニテ如斯ハ露亞乃至露亞正金「シンヂケート」ノ立場ヨリ黙視シ得サル次第ナリト述ヘタル趣ナリシニ付為念四月二十八日亞細亞局长ヨリ在大連安広社長ニ對シ本件ニ付別紙甲号ノ通問合セタル處四月三十日同社長ヨリ別紙乙号ノ通右ハ呼蘭綏化間新規契約ニ閔スルモノナルカ之ニ付テハ既ニ亞細亞局长ノ了解ヲ得タルモノナル旨ノ返電ニ接シタリ然ルニ右ハ從来ノ行懸ニ顧ミ全ク社長ノ誤解ニシテ前記局長トノ会見ニ際シ社長ニ於テ其來訪ノ目的カ呼海線第二段ニ閔スルモノナルコトヲ明瞭ナラシメタリトセハ同局長ニ於テ容易ニ之力材料供給ノ諒解ヲ与フヘキ筋合ニアラサリシナリ

二、賓黑鐵道ノ各方面ニ對スル重大ナル利害關係ニ顧ミ我方ニ於テハ該鐵道ノ建設問題ニ付テハ特ニ慎重ナル考慮

ヲ 払ヒ

(イ) 大正十四年九月十九日亞細亞局長ニ於テ安広社長ヨリ
満鉄ニ於テハ差当リ松呼線ノ外干与ノ意思ナキコト並将
來松呼線ヲ延長シ大規模ノモノトナスカ如キ場合ニハ必
ス予メ外務省ニ相談アルヘキ旨ノ了解ヲ得置キタルノミ
ナラス

(ロ) 大正十五年一月十九日及大正十五年二月八日ノ兩度ニ
亘リ同局長ハ満鉄側ニ対シ松呼線延長乃至呼海線計画ニ
付質問ヲ発シ同社ヨリ松呼線以外何等考慮シ居ラサルコ
トヲ確メ置キタル次第ニシテ

(ハ) 尚十四年十二月露亜代表者ヨリ其ノ賓黒鐵道「シンヂ
ケート」ノ相手方タル正金ニ対シ呼海線第一段即松呼線
ニ対スル満鉄ノ材料供給契約ニ閑シ質問アリタル際ニモ
満鉄側ト協議ノ上正金ヲシテ右ハ東支側ニ於テ賓黒線実
現ニ参画ノ説アルニ顧ミ之ヲ妨ケムカ為満鉄ニ於テ支那
側ノ希望ニ応シタルモノニシテ同社ニ於テハ差当リ進ン
テ賓黒線全線三千与スルノ意向ヲ有セサル旨ヲ露亜代表
者ニ回答セシメタル経緯アリ

三、然ルニ満鉄ニ於テ此際安広社長回答ノ如ク呼海即賓黒

鉄道第二段ヲ実行シ惹テ第三段第四段ト其工事ヲ進メ行
クカ如キハ從来各方面トノ諒解ヲ全ク覆スモノニシテ其
ノ結果ハ徒ニ日露ノ関係其ノ他ヲ困難ナラシムルニ止ル
コト明ナリ即チ

(イ) 対露関係

洮昂線建設問題以來露國側ハ在露大使乃至幣原大臣及
出淵次官ニ申出シ屢々抗議的申出ヲナシタルカ我方ニ於
テハ右ハ純然タル支那鐵道ノ建設工事ヲ満鉄カ請負ヒ
タルニ過キストテ可然之ニ應酬シ居タル處今回又々満
鉄ニ於テ支那ノ鐵道建設ニ藉口シ東支ノ支線ト見做ス
ヘキ本線ヲ軌道幅員ヲ異ニシ且東支側ト暗闇中ニ之カ
建設ヲ助長スルニ於テハ其結果ハ更ニ露國側ノ感情ヲ
刺激スルコトトナリ日露國交乃至東支満鉄間ノ關係ニ
重大ナル影響ヲ及ホスニ至ルヘシ

(ロ) 露亜トノ関係

本件ニ伴フ露亜側ノ申出ニ対シテハ満鉄側トシテハ
「該鐵道借款契約上ノ權利ノ實行又ハ擁護ニ付テハ露
亜ハ直接且単独ニ北京政府ニ申入ルヘキ筋合ナル」旨
ヲ回答スルヲ得ヘク又支那側ニ於テハ露亜銀行トノ契

約ヲ無視シ居ル実情ナリト雖モ満鉄ニ於テ何等露亜側
ノ権利ヲ顧慮セスシテ其計画ヲ進メ行クニ於テハ正金
ハ結局板挾ミノ窮地ニ陥ルノミナラス支那政府ニ対ス
ル露亜前貸金ノ半額ハ曩ニ満鉄カ正金ヲ通シ出資セル
モノナルニ顧ミ満鉄側ニ於テ露亜正金「シンヂケー
ト」契約ヲ無視スル行動ニ出ツルハ結局自ラ自己ノ權
利ヲ破壊スルノ自殺的態度ト云フヘキ處満鉄ニ於テハ
前記出資金ノ始末ニ付何等考慮スル所アル次第ナリヤ
ハ満蒙ニ対スル經濟的發展ノ關係

經濟上ノ見地ヨリ云フモ呼海鐵道ハ東支線ノ彼方ニ偏

在シテ東支鐵道東、西及南線ニ曲繞セラレ満鉄トハ全
然無關係ノ地位ニアルノミナラス東支線トノ關係ニ於
テモ軌道幅員ノ關係ヨリ連絡全カラス從ツテ本線開通
ノ曉果シテ收支償フヘキヤ否ヤ甚疑ハシク結局不徹底
ナル東支鐵道ノ營養線トナルニ過キサルヘク旁々此種
ノ線ハ当初計画ノ通り賓黒線ヲ東支側ノ手ニテ實現ス
ルヲ防止スルノ外妄リニ之カ延長三千与スヘキニ非ル
コト言ヲ待タス從ツテ満鉄トシテハ苟モ其資金ノ余裕

アラハスル機微ナル且我方ニトリ不急ナル線ニ尽スヨ

(別紙甲号)

大正十五年四月二十八日発(満鉄暗号)

在大連安広満鉄社長宛木村亞細亞局長電報写

四月二十二日露亞支配人ハ正金小田切ヲ來訪シ満鉄側ニ於テハ最近呼海鉄道第二段ノ建設材料供給方（金額約二百余万元）ニ付協議中ノ由ナル處右ハ露亞及「シンジケート」

側ノ立場ヨリ默認シ難キ所ナル旨述ヘタル趣在支公使ヨリ

電報アリタルカ從来當方諒解ノ満鉄側材料供給契約ハ所謂

呼海鉄道ノ一部タル松浦呼蘭間十數哩ノ鉄道ニ対スルモノ

ニシテ右ニ関シテハ客年九月十九日貴社長ノ御言明ニ接シ

居ルノミナラス本年二月貴社宛當方問合ニ對シテモ満鉄側

ニ於テハ右松呼線以外何等關係ナキ旨ノ御回電ニ接シ居リ

其後松呼線ノ延長乃至呼海線第二段計画ニ付何等御通報ニ

接シタルコトナシ從テ四月十三日貴社長御來訪ノ際ニ於テ

モ御話ノ内容ハ當然呼海鉄道建設ノ第一段タル松浦呼蘭鐵

道材料供給ニ關スルモノト了解シ居タル次第ニシテ前頭露

亞側ノ情報ハ何等信用ヲ置クニ足ラサルモノト思考セラル

ルモ其際御話ノ供給材料金額二百萬元ト右露亞申出ノ呼海

鉄道第二段計画ニ要スル金額トハ相符合スルモノアルニ付

テハ或ハ満鉄ニ於テハ最近右松呼線以外第二段ノ線ニ対シ

材料供給方御詮議中ノ次第ナリヤ其ノ辺ノ事情折返シ御回

電相煩シ度シ

(別紙乙号)

支社長宛

大正十五年四月二十九日(着)

社長発

一一九電見本件ハ松呼線ニアラス第二段ノ呼綫ノ材料供給契約ニテ本月二十四日黒龍江省代表者トノ間ニ調印シタリ新規契約ナルカ故ニ亞細亞局長ニ面会シ特ニ御話シタル

次第ニ要スルニ会社ヨリ進テ先方ヲ懲憲シテマテ何等新

關係ヲ結ハサルモ先方ヨリノ懇請アリタル時会社ニ於テ之ヲ拒絶スレハ先方ハ東支鉄道ニ交渉スヘク然ルトキハ折角

会社カ第一段松呼間ノ施設ニ關係シタル趣旨ヲ没却スル結果ニ至ルヘキニ付今回ノ依頼ニ応諾シタル次第ナリ今回ノ

契約ハ代金二百万円現金払ナル外殆ト前回ト同様ノ条件ナリ右局長ニ御回答アリタク契約写ハ直クニ郵送ス

一〇七八 五月六日 整原外務大臣ヨリ 支社長宛 (電報)

別電 五月六日整原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報

第一二八号

対露關係ニ鑑ミ呼綫ノ材料供給契約ノ実行延期
方指示ノ件

付記 五月八日安広満鉄社長發入江東京支社長宛電報

同契約ニ関シ目下施行延期方取運ビ中ナル旨外務大臣へ上申アリタキ件

第一二七号

貴電第三一二号ニ関シ

取調ヘノ結果當方ト満鉄トノ間ニ話ノ行違ヒアリテ満鉄ハ

第二段呼綫ニ対スル材料供給契約（金額二百万円）ニ調

印セル趣ナルヲ以テ本日満鉄社長宛別電第一二八号要領

ノ通右契約實行延期方電報シ回答ヲ求メアリ追テ右別電ノ

趣旨ニ依リ露亞ヨシテ満鉄並支那側ニ抗議セシムルコトト

ナルヘキニ付右御含置ノ上小田切ニ対シ往電一〇九号回答

露亞側ニ發送方見合サシメラレタク尚以上ノ次第正金ヨリ

小田切ニ電報済

(別電)

五月六日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第一二八号

対露關係ニ鑑ミ呼綫ノ材料供給契約ノ実行延期方指示ノ件

第一二八号 別電

満鉄今回ノ計画カ呼海線第二段呼綫ニ関スルモノナルコ

トヲ當方ニ於テ了悉シタリセハ其対露亞銀行關係殊ニ対

關係ノ極メテ機微且重大ナルニ鑑ミ容易ニ之ニ同意致兼ネ

九 東三省鐵道問題 一〇七九 一〇八〇

一三三八

入ニツキ充分ノ智識ヲ持タヌ故会社ノ手ヲ経ル方安心ナリ
代金モ現金ヲ支払フトノコトニテ購入ノ依頼ヲ受ケタルモ
ノニシテ会社ハ露亞銀行トノ関係ニハ故障ナシト信シテ行
ヒタルモノナルカ折角ノ御來示故目下齊々哈爾公所長ヲ呼
ビ寄セ施行延期方取運ヒ中ニツキ御了知ヲ乞フ

一〇七九 五月十七日 在奉天吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

満鉄ノ呼海線材料供給契約ヲ繞ル対中ソ關係

方策ニ關シ意見稟申ノ件
第一六二号

齊黑鐵道ノ一部タル呼海線ニ對スル滿鉄、黒龍江省間ノ契
約ハ帝國政府ノ承認ヲ得ル能ハス内々省政府ニ對シ滿鉄ハ
契約延期ノ申込ヲナサントスル趣其ノ詳細ノ經過ハ承知セ
サルモ折角之迄ニ進行セル本契約延期ハ北滿ニ於ケル我進
展上將又對露支關係上頗ル^{キシナシヨウカン}アリ本件行惱ハ露亞銀
行筋ノ關係ニ原因ストセハ北京ニ於テ「ド・ホイヤー」ヨ
リ小田切ヘ又当地ニテ「クラーベ」ヨリ松岡及本官ニ嘗テ
齊黑鐵道ニ関シ申入ノ次第付テ察スルニ露亞ノ希望ハ結
局権利保全乃至讓渡ニアリテ我ニ多少ノ犠牲ヲ払フノ覺悟

アラハ協議ノ余地ナキニモ非ル可シ殘ル處ハ對露政治關係
ナルモ北滿ニ於ケル彼我提携、非提携何レトモ同方面ニ於
ケル我實質的利益カ先ツ我外交戰ノ武器タルハ申迄モ之ナ
ク實質的權限ニ乏シキ北滿ニ於テ滿鉄ノ呼海線投資ノ如キ
ハ他日對露支關係ニ於テ最モ我利益ニ利用シ得可キモノタ
ル可ク依テ黒龍江省政府へ交渉開始前一応当地ニ於テ「ク
ラーベ」ニ曩ニ彼ヨリ切出シタル申入ヲ話ノ切懸トシテ露
亞側ノ内意ヲ確カムルコトトシテハ如何カト存セラル仮令
露亞トハ交渉不調トナルモ露亞ヘハ相當協議ノ手ヲ尽セル
コトハ又偶々滿鉄トシテ省政府ニ對シ好意ノ表示トシテ將
來ノ關係持続上ニ有利ニ援用スルヲ得可ク旁々卑見一応御
詮議ノ上何分ノ御回答ヲ請フ

一〇八〇 五月十八日 在ハルビン天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

北滿諸鐵道問題ニツキ程廷恒ノ談話要領報告

ノ件

機密第三六四号

大正十五年五月十八日

（五月二十六日接受）

ル虞アルカ故ニ右材料運搬終了迄ハ横斷問題ノ交渉ヲ

開始セサルコトニ黒龍江省幹部ノ意見一致セリ云々

右御参考迄

本信写送付先 在露大使、在支公使、在奉天總領事、在

齊々哈爾領事

一〇八一 五月二十一日 在チチハル清水領事ヨリ
幣原外務大臣宛

約締結ニ關シ報告ノ件

満鉄・黒龍江省間第二回呼海鐵道材料供給契

機密第一〇三号

（五月二十九日接受）

大正十五年五月二十一日

在齊々哈爾

領事 清水 八百一（印）

外務大臣男爵 币原 喜重郎殿

供給契約締結ニ關スル件

満鉄黒龍江省間第二回呼海鐵道材料

一、去ル四月吳督弁奉天ニ於テ「セレブリヤコフ」交通次
長ニ對シ洮昂線ノ昂々渓横断問題ヲ持出シタルハ事實ナ
ルモ双方不得要領ノ會談ニ終レリ今トナリテハ呼海鐵道
材料運搬前ニ本問題ヲ持出ス時ハ東支側ヨリ妨害ヲ受ク

半ト為サシメンカタメニ義ニ満鉄力呼海線ノ松浦鎮呼蘭間敷設用材料トシテ同社所有ノ古材料時価金八拾余万円ノモノヲ武拾万円値引シ六拾余万円ニテ呼蘭鐵道ニ売却セル次第ハ已ニ御承知ノ通りナリ（客年十月十六日付在哈爾賓天羽總領事發責大臣宛機密第一七一号参照）

当省政府ハ其後呼蘭綏化間敷設材料買入ノ為メ各方面ヨリ見積書ヲ徵シ居リシ由ナリシカ當省政務廳長程廷恒ハ右材料購入ノ為メ早川当地満鉄公所長ト共ニ三月以来二回大連ニ出テ満鉄側ト交渉ノ結果右材料全部其代価壹百九拾參万武千壹百八拾円ノ購入方ヲ満鉄ニ依頼スルコトトナリ右ニ関シ四月二十四日付ヲ以テ満鉄社長ト黒龍江省督軍吳俊陞及同省長于鵬興トノ間ニ別紙ノ如キ契約書ヲ締結セリ

本件鐵道敷設用材料供給交渉ニ関シ早川公所長ノ小官ニ内話スルトコロニ依レハ程政務廳長ハ満鉄ニ對シ前回同様ノ価格ニテ古材料ノ供給方申入レタルニ満鉄ニ於テハ古材料ノ持合セ無キヲ答フルト同時ニ満鉄ニ於テ同社用ノ材料中ニ呼海線ノ分ヲ混セ購入スルトキハ安価ニ仕入レ得ルニ付御希望トアラハ満鉄用ノ分ト共ニ購入方取計フヘシト申出テ大体ノ見積リ値段ヲ示シタル処程政務廳長ハ他ヨリ取寄

付属書 五月十九日付在北京露亞銀行支配人ベルチエヨ

リ小田切横浜正金銀行取締役宛覺書
賓黒鐵道建設權讓渡問題ニ關スル露亞銀行ノ提案

機密第六三六号

大正十五年五月二十八日

（六月七日接受）

在支那

特命全権公使 芳沢 謙吉（印）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

賓黒鐵道ニ關スル件

（欄外記入）先般貴電第一二七号接到前「ドウ、ホイヤー」小田切ヲ訪問シ賓黒鐵道建設權讓渡問題ニ對スル満鉄ノ意向如何ニ付

質問スル所アリ小田切ヨリ之ニ對シ未タ満鉄ヨリ正式ノ意

向回示ナキモ自分ノ考フル所ニテハ露亞銀行ノ賓黒鐵道借款契約上ノ権利ハ露亞及支那政府間ノ契約ニ基クモノナルヲ以テ露亞トシテハ該権利ノ保護ニ付テハ支那政府ニ申出ツヘキモノト考ラル旨述ヘタルニ「ドウ、ホイヤー」ハ右

意見ハ理論ノ上ニ於テハ頗ル妥当ナルモノナル唯實際問題トシテ目下相手取ルヘキ中央政府ナク又中央政府出現ノ上之ニ何等申出テタリトスルモ果シテ権利擁護ノ目的ヲ達

セタル見積書ト比較シ満鉄ニ依頼スル方遙カニ安価ナリシヨリ満鉄ニ購入方ヲ依頼スルコトトシ又代金支払ノ点ニ付テハ最初満鉄ハ現品ノ引渡ト同時ニ代金ノ支払ヲ受クルコトトシ若シ黒龍江省ニ於テ現品ノ引渡ヲ受クルモ代金ヲ支払ハサル場合ニハ借款ニ引直スコトニ致シタシト申出テタル處程政務廳長ハ契約中ニ借款ニ引直シノ条項ヲ入ルコトハ世間ニ對シ面白カラストテ支那側内部ニ於テ種々協議ノ結果吳督軍ヨリ私金ヲ立替支払フコトトナリ契約ノ成立ヲ見ルニ至レリト云フ尚吳督軍ハ今回多倫方面へ出陣スルニ当リ右鐵道材料代金支払ヒニ充ツル為メ広信公司ニ宛テタル大洋壹百武拾万元ニ相當スル穀物ノDelivery Orderヲ認メ省長ニ交付シ出発シタル趣ナリ

右報告ス
本信写送付先 在支公使、奉天、哈爾賓各總領事
編註 別紙契約書省略

一〇八二 五月二十八日 在中国芳沢公使ヨリ

幣原外務大臣宛

賓黒鐵道建設權讓渡問題ニツキ露亞銀行ヨリ

横浜正金銀行ニ申出ノ件

（付属書）

五月十九日付在北京露亞銀行支配人ベルチエヨリ小田切横浜

正金銀行取締役宛覺書

賓黒鐵道建設權讓渡問題ニ關スル露亞銀行ノ提案

Banque Russo-Asiatique.

Peking, May 19th, 1926.

M. Odagiri Esq.,
Representative of the Yokohama
Specie Bank,

Peking.

Dear Mr. Odagiri,

With reference to the last conversation which Mr. de Hoyer and myself have had with you, I beg to enclose herewith a brief Memorandum, summarising our suggestions regarding the Pin-Hei question.

I will be very much obliged to you for examining it and kindly letting me know when I can come and see you to have your opinion on our proposals.

Believe me, dear Mr. Odagiri,

Yours sincerely,

(Signed) A. Berthier.

BANQUE RUSSO-ASIASTIQUE

Pekin, le 19 Mai 1926.

of this line, the South-Manchurian Railway Company, to a certain extent, assist the execution of a plan which violates the rights and infringes the interests both of the Russo-Asiatic Bank and of the Yokohama Specie Bank, associated with the Russo-Asiatic Bank in this business.

As, on the other hand, the Chinese Government has not recognised, so far, the Syndicate Agreements of 1919 and 1924, thus hampering the execution by the Russo-Asiatic Bank of the Pin-Hei Contract, the best solution of the present situation would obviously appear to be an amicable understanding between all the parties concerned, viz.: the Chinese Government, the Russo-Asiatic Bank — owner of the concession and the latter's associate — the Yokohama Specie Bank, as well as the South Manchurian Railway Company. The first step towards this purpose would be an agreement with the South Manchurian Railway Company, to be reached through the friendly intermediary

The latest information which has reached us, as well as that received since by Mr. Odagiri, leaves no doubt as to the importance of the infringement of the rights of the Russo-Asiatic Bank, granted to the latter by the Pin-Hei contract, and in which the Yokohama Specie Bank participates on the strength of the Syndicate Agreements of 1919 and 1924, — an infringement resulting from the construction of a railway line to the north of Harbin which the Chinese authorities in Manchuria have recently undertaken.

Indeed, whatever the starting point and course of this railway line may be, as planned at present, it is intended to establish communications with the regions of Hu Lan, Sui Hua Fu, etc... and can, evidently, be considered only as a section of the railway system, the construction of which has been conceded to the Russo-Asiatic Bank by the Contract of 1916. By supplying material required for the building

of the Yokohama Specie Bank, with a view to subsequently jointly approaching the Mukden authorities with a definite program.

The following are the general lines on which the Russo-Asiatic Bank considers that such an understanding could be reached:

- 1) A draft of the Syndicate Agreement, planned by the Representatives of the Yokohama Specie Bank of the Russo-Asiatic Bank in May 1919, provided for a "triangular" combination for the execution of the Pin-Hei contract, with the co-operation, namely, of the Banque de l'Indo-Chine, for which a place had been reserved in the Syndicate. The Banque de l'Indo-Chine having, a month later, notified its withdrawal from the abovesaid scheme, the Syndicate Agreement was signed only by the Yokohama Specie Bank and by the Russo-Asiatic Bank.

The Russo-Asiatic Bank would therefore suggest to take up again this so-called "Special Syndicate

Agreement" as a basis for a new contract in which the South-Manchurian Railway Company would take the place of the Banque de l'Indo-Chine. The Yokohama Specie Bank would, of course, keep all the rights acquired by it on the strength of the new Syndicate Agreement of 1924. Diverse amendments would, naturally, also have to be brought into the above-mentioned draft Syndicate Agreement, in consequence of the fact that the third partner would now be an industrial enterprise, instead of a bank. Other details could be agreed upon later by the three parties concerned.

2) The South-Manchurian Railway Company, after having become a partner in this business, would reimburse, with interest up to the date of the signing of the new triple Syndicate Agreement, one third of the advance payments to the Chinese Government, such reimbursement to be made to the amount of Tls. 270,000, in round figures, in equal shares to the Yokohama Specie Bank and to the Russo-Asiatic Bank.

namely, the differences of opinion now existing between Mukden and the Soviet authorities seem to create at this moment an atmosphere particularly favourable for an understanding between the partners in the aforesaid Syndicate Agreement and the local authorities. It would be highly desirable not to miss this opportunity to have the Pin-Hei Concession, and the Syndicate Agreement confirmed by the latter. Should this scheme, however, not materialise for some reason, the Far Eastern Management of the Russo-Asiatic Bank would be prepared to recommend to their Head Office the transfer of the whole Pin-Hei concession to the Yokohama Specie Bank, against reimbursement by the latter to the Russo-Asiatic

Such an arrangement which would, naturally, have to be sanctioned by the Head Office of the Russo-Asiatic Bank could, by an exchange of letters, be maintained secret up to the moment when the Yokohama Specie Bank would find it opportune to officially request the Russo-Asiatic Bank to transfer to it, in accordance with Article 20 of the Pin-Hei contract, the rights belonging to the Russo-Asiatic on the strength of this contract.

10211 KMT 11月 在中國芳澤公使
在中國芳澤公使
鹽原外務大臣宛(電報)
中國政府ニ露用鐵道ニ及ハ寶黑問題ニシテ十
糸立トシハハーベルナムナル並公使談話

並

第六次印

(KMT口譯)

Bank of the second half of the advances to the Chinese Government, with interest accrued. In this eventuality, a special clause would have to reserve a preferential position to French industry for all supplies not bought on the spot or imported from Japan.

hama Specie Bank and to the Russo-Asiatic Bank. 3) The status of the concession-owners would thus be clearly defined. Should it thereupon be necessary for its due recognition by the Mukden authorities, to increase the interest which the latter show in the construction of the Pin-Hei Railway or, at least, of the sections already planned north of Harbin, the Yokohama Specie Bank and the South-Manchurian Railway Company would, with this object in view, assist their associate, the Russo-Asiatic Bank, in obtaining from the Chinese Central Government the reimbursement of the advances received by the latter (with interest accrued). These advances could be repaid, for instance, in the form of mandates on the Salt Revenue or with other adequate guarantees, the proceeds to be subsequently transmitted to the Mukden authorities who would "ipso facto" assume the liabilities of the Central Government in this connection.

The present political situation in Manchuria and, in the construction of the Pin-Hei Railway or, at least, of the sections already planned north of Harbin, the Yokohama Specie Bank and the South-Manchurian Railway Company would, with this object in view, assist their associate, the Russo-Asiatic Bank, in obtaining from the Chinese Central Government the reimbursement of the advances received by the latter (with interest accrued). These advances could be repaid, for instance, in the form of mandates on the Salt Revenue or with other adequate guarantees, the proceeds to be subsequently transmitted to the Mukden authorities who would "ipso facto" assume the liabilities of the Central Government in this connection.

銀行ニ対シ重大ノ利害関係ヲ有シ從テ同銀行ノ企画セル賓
黒問題ニ付テモ政府トシテ相当ノ保護ヲ与ヘントスル方針
ニシテ実ハ前記露亞銀行ノ正金ニ提出セル覺書モ事前本国
政府ト打合セ其承認ヲ得タル上之ヲ提出シタルモノニシテ

同覺書写ハ駐日大使ヘモ送付シ置キタルカ近來仏國ノ製鐵
業振興シ各種鐵道材料ヲ外國ニ供給シ得ルノ地位ニアリ賓
黒工事ニモ或程度迄之ヲ使用セシメ度キ希望ヲ有スト語リ
タル趣ナリ就テハ右覺書御查閱ノ上ハ小田切ノ露亞ニ対ス
ル応答振リニ付御回電相成度

一〇八四 六月七日

(幣原外務大臣ヨリ
在中國芳沢公使宛 (電報)

寶黑鐵道建設權讓渡問題ニツキ横浜正金銀行

ヨリ露亞銀行ニ対スル回答案要旨通報ノ件

第一五三号

貴電第三八八号ニ閲シ

一、往電第一二七号呼綫第二段材料供給契約問題ニ付テ
ハ満鉄ニ於テハ露亞ノ抗議ニヨリ之ヲ延期スルコトハ好

マシカラス自發的延期方支那側ト交渉中ナルモ満鉄正金
協議ノ上不取敢貴地正金ヲシテ露亞側ニ対シ本件ニ閲シ

ル件

機密第四二八号

(六月十五日接受)

大正十五年六月七日

在哈爾賓

総領事 天羽 英二 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

呼海鐵道ニ対スル労農側ノ態度ニ閲スル件

呼蘭綏化間鐵道工事ハ屢次拙報ノ如ク着々進行シツツアル
カ労農側ハ本月一日付正金機密合第六四二号貴信滿州諸鉄
道問題ニ關スル日露会談要領ニテ明白ナル如ク本線ニ対シ
テハ可ナリニ敏感ニシテ東支側ニ於テモ亦本年四月六日付

機密第一四九号拙信報告ノ如ク之ニ対シテ精細ナル調査ヲ

遂ケタルコトアリ殊ニ昨夏「イワノフ」東支管理局長カ之
ヲ計画シテ奏功セサル關係モアリ又今回ノ鐵道カ標準軌幅
ヲ採用シ鐵道材料ハ主トシテ満鉄ヨリ供給セラレタル關係
モアリ必スヤ何等カノ手段ヲ以テ工事妨害ノ企画ヲ講スル
ナラント予測セラレタルカ將ニ同線第一期工事ノ竣工ヲ見
ントスル今日ニ至ル迄労農系新聞ハ殆ント沈黙ヲ保チ何レ
ノ方面ニ於テモ其工事ニ対シテ何等妨害的手段ヲ講シタル

満鉄ノ注意喚起シ置キタル旨回答セシムルコトトセリ
二、五月十九日付露亞覺書ニ対シテハ左ノ通り正金ヲシテ
「シンヂケート」ニ参加ノ意思モ無キニ付此ノ辺露亞側
ニ於テ誤解ナキヲ期セラレ度シトノ趣ナルカ
(b)露亞覺書第二提議ニ対シテハ正金トシテハ到底考慮ノ
余地無シ

尚貴官御参考迄申進スルモ露亞銀行ノ権利ニ関シテハ往
信亞一機密第六四二号付属「セレブリヤコフ」出淵次官
会談錄(2)ニ依ルモ明ナル如ク「ソビエツト」側ハ右権利
ヲスヘテ繼承シタリト主張シ居ル處仏國側ニ於テ該権利
ニ対シ何等容喙セントスルハ如何ナル次第ナルヘキヤ何
レニスルモ露亞銀行乃至同銀行権利ノ現在ノ「ステータ
ス」ニ付テハ篤ト研究ヲ要スルモノト思考セラル

一〇八五 六月七日

(在ハルビン天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛)

呼海鐵道問題ニ対スルソ連邦側ノ態度ニ閲ス

事實ヲ聞カス即チ

一、曩ニ東支側ハ洮昂線ノ工事ヲ妨害センカ為札免採木公
司ニ貨車ノ配給ヲ停止シ用材ノ輸送ニ頓挫ヲ來シタル事
例モアリ労農若クハ東支側ハ今回満鉄ヨリ供給スル呼海
線所用材料輸送ニ対シテ何等カノ妨害ヲ講スルナラント
期待シタルモ四月二十二日東支理事会ハ露支両國理事一
致シテ呼海鐵路局ノ請願ニ係ル同鐵道材料輸送運賃割引
(従来二割五分引ナリシヲ六月一日ヨリ四割引)ヲ承認
シ(本年四月二十四日付機密第二九三号拙信参照)是等
材料ハ着々起工地ニ到着シツツアリ(本月五日付機密第
四二〇号拙信参照)

二、露亞銀行ハ御承知ノ如ク本鐵道敷設ニハ反対ニシテ而
カモ同銀行當地支店長「ヴィアノヴスキイ」ハ嘗テハ労
農側ト靈犀相通ノ風説モアリ(客年十月二十八日付機密
第一七七号拙信参照)タルカ故ニ労農側ニ於テ該銀行ト
共同シテ之カ妨害ヲナスコト必スシモ想像シ得ラレサル
ニアラサリシカ今迄ノ処何等画策セル模様ナシ
三、或ハ又労農側ニ於テハ長大線敷設計画ニ対シテ石扶
(石頭城子扶余)線ヲ計画スル如ク呼海線ニ対シテモ五呎

軌幅ノ安達拌泉線ノ如キ競争線ヲ計画シテ之ニ対抗スルコトハアリ得ヘキコトナルカ現在ニテハ只タ自働車運行ノ計画（本年三月八日付本官発齊々哈爾領事宛機密第一二号（閣下宛第一八〇号）及本年三月二十三日付機密第一一〇四号拙信参照）ノ風説アルノミナリ

四、労農系諸新聞ハ洮昂線ニ対シテハ猛烈ナル反対ヲナシ現在ニ於テモ尚ホ惡声ヲ断タサルカ故ニ呼海線ニ対シテモ多少ノ論難ヲ予期シタルモ今日迄ノ處極メテ鎮靜ナリ斯ノ如ク洮昂線ニ対シアラユル妨害ヲ講シタリシ労農側ノ態度カ呼海線ニ対シテ平静ナルハ其間何等カノ理由ナカラサルヘカラサルカ今之ヲ按スルニ

イ、呼海線ハ支那官憲ニ於テ支那側ノ資金ヲ以テ建設シ支那側ニ於テ運行スヘキコト明白トナリタルカ故ニ呼海線ニ対スル反対ハ直接支那側ニ対スル反対トナルヘキコトロ、満鉄ノ關係スルハ單ニ材料壳込ニ過キスシテ鉄道ノ運行ニ対シテハ何等閔与セサルコト明白トナリタルコト

（右ハ東支鐵道經濟局員ノ本鐵道調査復命書（本年四

場合呼海線ノ日本ニ対スル軍事的価値ハ僅少ニシテ洮昂線ニ比シ非常ナル懸隔アリ）

等ノ諸理由ニ基クモノニアラサル乎只前顧亞一機密第六四二号貴信ニ依ルモ労農側ハ本線ニ対シ可ナリニ強キ不安ヲ感シ居ル様子ナルヲ以テ本線ヲ含ム北滿諸鐵道問題ニ就キ我要路ト談合何等協定ヲ遂ケムコトヲ期待シ夫迄本線ニ対シテ強イテ沈黙ヲ守リシヤモ計ラレス若シ果シテ然ラハ「セレブリヤコフ」ノ渡日カ予期スル結果ヲ齎ラササリン今日如何ナル方策ニ出ツヘキカ其間多少ノ興味ナシトセス今後モ注意ヲ怠ラサルヘキモ取敢ヘス

本信写送付先 在露大使、在支公使、在奉天總領事

一〇八六 六月一十六日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛

寶黑鐵道問題ニ關シ横浜正金銀行より露亞側

行ヘノ回答写送付ノ件

（七月八日接収）

機密第七五一號

大正十五年六月一十六日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉（印）

九 東三省鉄道問題 一〇八六

月六日付機密第一四九号拙信参照）中ニモ記述シアリ又前記四月二十一日東支理事会ノ席上ニテモ露支両國理事ニ於テ報告セラレタル由ナリ）

ハ、呼海線ハ東支培養線タラシメ得ルコト（東支理事会

ニ於テ呼海線材料輸送運賃割引問題ヲ議シタルトキ勞

農側理事ハ支那側理事ニ対シテ呼海線カ東支ノ培養線

タルコトヲ指摘シタルコトアリ（本年四月二十四日付

機密第二九三号拙信参照）又現工事請負者「オストロ

ウーモフ」モ本鐵道ハ畢竟東支ノ培養線タル性質ヲ有

スルカ故ニ仮令緩化以北ニ延長スルモ東支トシテハ何

等妨害ヲ加フヘキ理由ヲ有セスト語レルコトアリ当地

ニ於テ最モ有力ナル特產商「ワツサール」商會支配人

「ヤコブソン」（丁抹名譽領事）モ呼海線ニ依リ最モ

利益ヲ受クルモノハ東支ト満鉄何レナルヤハ断定シ得

サルモ場合ニヨリテハ東支ノ方多クノ利益ヲ受クヘク

モ烏蘇里鐵道ノ受クル利益最モ少ナカルヘント謂ヘル

コトアリ）

一、労農側トシテハ軍事上ノ危惧少ナキコト

（呼海線成ルモ東支南線ハ五呎軌幅ナルカ故ニ有事ノ

外務大臣男爵 積原 喜重郎殿

寶黑鐵道問題ニ關シ正金ヨリ露亞側ニ与ヘタ

ル回答写送付ノ件

寶黑鐵道問題ニ關シ露亞銀行申出ニ対スル正金側ノ回答振貴電第一五三号ヲ以テ御垂示アリタルヲ以テ右当地正金商店ヘ通報ニ及ヒ置キタル處今回正金ヨリ別紙英訳文写ノ通り露亞側ニ回答シタル旨報告アリタルニ付同写茲ニ送付ス（別紙写）

COPY.

June 25th, 1926

Mr. A. Berthier,
Manager,
The Russo-Asiatic Bank,
Peking.
Dear Mr. Berthier,

With regard to the Pin-Hei Railway question raised in your letters of March 30th and May 19th last, I hasten to inform you that I am in receipt of a reply from the South Manchuria Railway Company to

the effect that it has not been their intention to intimate in principle their willingness, as stated in your first letter above referred to, to take over the rights granted to the Russo-Asiatic Bank in respect to the Pin-Hei Railway and that, as has clearly been stated in the Memorandum handed over to you from Mr. Odagiri on February 18th last, they simply meant to communicate that they might come in future to consider the question when the political situation in China would be more settled. Consequently the South Manchuria Railway Company has no intention to participate in the Syndicate Agreement of 1919 and 1924 and they desire to bring this point particularly to your notice so as to avoid any misunderstanding on your part.

As for the second alternative of your proposals laid down in the last paragraph of your letter of May 19th, I am directed from our Head Office to inform you that the Yokohama Specie Bank are not disposed to take into consideration the question of transfer of

the whole Pin-Hei concession.

Our Head Office further informs me that they did not fail to draw the attention of the South Manchuria Railway Company as to the information contained in your letter dated April 26th last regarding the alleged supply of materials for construction of the new section of the Pin-Hei line.

Believe me, Dear Mr. Berthier,

Yours faithfully,

For The Yokohama Specie Bank, Limited,
(signed) D, Nohara
Manager.

1087 八月十一日 出席外務次官
ム・ホイヤー露亞銀行代表合談要領

露亞銀行賣黑鐵道契約ニ関ヘル権利義務ノ概

鉄ニ讓渡ハタキ血申ヘシノ件

大正十五年八月十一日露亞銀行代表者「ム・ホイヤー」出
淵次官ヲ來訪シ賣黑鐵道問題ニ關シ左ノ如ク内話ヤリ

自分ハ近々北京ヲ出發、帰仏シ本年九月開催ノ露亞銀行

株主總会ニ出席ノ筈ナルカ右總会ニ於テハ露亞銀行ノ將

来ニトリ重要ナル事項ヲモ議スル予定ナリ賣黑鐵道問題

ニ關シテハ露亞トシテハ飽迄モ原計画ヲ実現シ度考ナル
カ田下資金難ノ現状ニテヨアリ且ハ仏國政府財政モ極メ
テ不如意ニシテ從テ露亞銀行ヲ政治上、金融上後援シ吳
ルルコトハ此際到底望ニ難シ故ニ若シ滿鉄ニ於テ賣黑鐵
道契約ニ關スル露亞ノ権利義務全部ヲ引受クルナレハ露
亞トシテハ喜ンテ之ヲ讓渡シ度考ナリ就テハ右讓渡方ニ
付何分ノ御援助ヲ願度尚自分離燕後モ北京ニハ露亞代表
者滯在スベキニ付本件ニ關スル滿鉄側ノ意向ハ右代表者
ニ於テ承リ得クシニシタ

(大正十五年八月二十一日谷課長述 岡崎記)

外務大臣男爵 横原 喜重郎殿

呼海東支両鐵道連絡問題ニ關スル件

滿鉄ニ於テ呼海鐵道材料供給ヲ援助シタルハ東支ノ呼海鐵
道敷設計畫防止呼海ノ標準軌条ノ採用及滿鉄培養線敷設等
ノ目的ニ出テタルモノナルモ標準軌条ハ有時ノ場合ハ容易
ニ東支同様ノ廣軌ニ改築シ得ベク又呼海線ハ現状ノ下ニ於
テハ滿鉄ヨリモ更ニ多ク東支線ノ培養線タルコトハ屢次拙
報ノ如ク
東支ハ呼蘭線成ルヤ果然呼海ニ對シ両鐵道連絡問題ヲ提議
シ會議一時中止シタルモ両鐵道代表ハ今尚引続キ会談ヲ遂
ケ居ル次第八客月二十一日付機密第七三四号拙信報告ノ如
シ其後二十九日ノ當地新聞ニハ

東支、呼海間積換駅ニ關スル協定

(九月二十九日 東三省商報)

呼海東支両鐵道連絡問題ニ關スル件

機密第八〇六号

(十月二十一日接収)
大正十五年十月十六日

在哈爾賓

總領事 天宗 勝一(臣)

九 東三省鐵道問題 1088

露里乃至五露里ノ支線(前名松北)上ニ積換駅ヲ建設
ベ
丁右積換駅ハ東支ニ於テ出資建造シ且ツヤハ管理ベ

1111H

九 東三省鉄道問題 一〇八九

一三五二

(三) 松北支線一帯ノ土地所有権ニ関シテハ東鉄土地問題カ

露支両政府ニ於テ一九二四年ノ奉露協定ニ拠リテ解決

セラレサル以前ニ在リテハ之ヲ當分ノ間双方ノ議案ト

シ置キ東鉄土地問題カ前記ノ手続ニ依リ解決セラレ右

東鉄積換駅ノ占用スル土地カ呼海鉄道ノ所有ト認メラ

レタル時ニ於テハ東鉄ハ呼海ニ対シ積換駅ノ土地租借

料ヲ納付スヘシ其額ハ双方協議ノ上之ヲ決定ス

ナル記事掲載セラレタルカ本月十一日高呼海鉄道局總理他

用本官來訪ノ節該新聞記事ニ言及シテ右ハ主トシテ付属地

問題ニ關係セルモノナルカ只今協定草案起草中ニテ決定シ

タル訳ニアラス又両鉄道連絡協定ハ今尚協議中ナリト言明

シタリ

然ルニ他方客月十四日吳黒龍江省督弁凱旋後広信公司總弁

張興仁ハ活動ヲ開始シ屢々東支幹部トモ接触シ居ル形跡ア

ルカ滿鉄側ノ情報ニヨレハ張總弁ハ九月二十七及二十八ノ

両日「エムシャーノフ」管理局長ト会見シ大体

(一) 呼海鉄道輸出貨物ハ總テ浦潮ニ仕向クルコト

(二) 「ウオーロンツオフ」林区製品搬出禁止ハ直ニ撤廃ス

ルコト(以上東支側ノ要求)

/件

本機密第二九五号(極秘) (十二月十五日接受)

大正十五年十二月四日

在齊々哈爾

領事 清水 八百一(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

滿鉄側ニ於テ広信公司取扱貨物輸送ニ關スル東支、

広信公司間互惠契約ノ成立ヲ阻止シ滿鉄側ト広信公

司間ニ右取扱貨物ヲ南行セシムルコトニ諒解成立シ

タル件

本件ニ關シテハ在哈爾賓天羽總領事ヨリ十月十六日付機密

第八〇六号、十月十九日付機密第八一八号及十一月二十二

日付機密第八九五号等ヲ以テ貴大臣宛報告セラレタル所ア

リ小官ヨリモ在哈爾賓天羽總領事宛十一月二日付公領機密第

二六〇号)セル所アルヨリ本省ニ於テモ本件ノ成行ニ付テ

ハ大体御承知ノコトト存スル處本問題ハ可成複雜セルト他

方ニハ滿鉄側ニ於テモ最初本問題ニ關シ東支広信公司間ニ

進行シツツアリタル交渉ノ内容ヲ的確ニ突止ムルヲ得ス其

シ置キ東鉄土地問題カ前記ノ手続ニ依リ解決セラレ右

等ニ就キ略々了解ヲ遂ケ近ク高呼海鉄道局總理ノ承諾ヲ求ムル筈ナル由ニテ滿鉄側ハ此情報ニ接スルヤ直チニ各方面ニ運動シテ呼海輸出貨物ノ浦潮行妨止策ニ腐心中ナリ右ノ如ク最近広信公司カ其紙幣流通ト交換ニ東支ノ東行政策ヲ助ケントスル氣配ヲ示セルハ滿鉄トシテハ多大ノ警戒ヲ必要トスル所ニシテ今後呼海東支ノ關係ハ我方ニ取りテハ深甚ナル注意ニ值ヒスルヤニ見受ケラル

本信写送付先 在露大使、在支公使、在奉天總領事、在齊々哈爾領事

一〇八九 十二月四日 在チチハル清水領事ヨリ

幣原外務大臣宛

滿鉄ト広信公司間ニ南行貨物輸送ニ關スル詔

解事項ヲ成立サセタル経緯及ビソノ内容報告

真相ノ探知ニ努ムルト同時ニ他方之レカ対策ヲ講スル中ニ其内容モ幾分ツツ漸次臘氣ナカラ明白トナリタル事情モアリタルタメ本省ニ於テモ本問題ノ真相ヲ捕捉セラルニ遺憾ノ点アルヘシト存スルニ付左ニ本問題発生ノ当初ヨリ最近滿鉄側カ東支広信公司間ニ進行中ナリシ互惠契約ノ成立ヲ阻止シ之ヲ不成立ニ終ラシメタル後滿鉄側ト広信公司間ニ南行貨物ニ關スル諒解ノ成立ヲ見ルニ至レル迄ノ經緯、右諒解ノ内容並ニ其結果等ニ關シ報告スルコト左ノ如シ一、呼海東支連絡問題ト東支広信公司互惠契約問題

呼海鉄道ト謂ヒ広信公司ト謂ヒ共ニ黒龍江省現當局者殊ニ吳督軍一派ノ殆ント當利機関ノ如キ觀アルヨリ本両問題ニ關シ支那側カ東支ト之ヲ交渉スルニ当リテハ自然両者ヲ同時ニ商議シタルコトモアルモノノ如キモ元來両者ハ全然別個ノ問題ニシテ前者ハ東支ノ廟台子駅ヨリ呼海ノ松浦駅ニ向ケ延長セル東支ノ引込線ヲ通シテ行ハルル貨物ノ連絡輸送ニ關スル事項ヲ取極ムルヲ目的トシ後者ハ東支カ其費用ニテ広信公司ノタメニ「ザトン」(別図参照)ニアル同公司ノ油房ニ対シ引込線ヲ敷設シ且ツ右引込線上ニ於ケル運賃ヲ安価ニスルコトヲ条件トシテ広信公司カ呼海ニヨリ輸

出スル貨物中ノ一定数量ヲ浦潮ニ仕向ケシメ以テ契約者間相互ノ利益ヲ計ラントセルモノナリ

二、呼海東支連絡問題ノ成行

呼海ヨリ東支ニ引渡ス輸出貨物及東支ヨリ呼海ニ引渡ス輸入貨物ノ連絡ニ関スル事項即チ連絡貨物ノ積換地点、積換用線、積換作業、東支引込線ノ運賃等ニ関スル事項ヲ商議取極メントセルモノナリ右商議ハ八月中頃ヨリ哈爾賓ニ於テ呼海東支各代表者間ニ行ハレ相当曲折ヲ経タル後仮契約ノ調印ヲ見タルモ調印後支那側ニ於テ右仮契約研究ノ結果

東支引込線運賃ノ格外ニ高価ナルコトニ氣付キ支那側ニ於テハ該仮契約ヲ破棄シ（十一月二十二日付在哈爾賓天羽總領事発本省宛機密第八九五号信参照）東支トノ間ニ改メテ連絡協定ヲ商議セントシツツアルモノノ如シ右仮契約破棄事情並ニ新協定ノ商議ニ關シ当省張財政局長（同人ハ呼海鐵道ノ督理ヲ兼任ス）カ本月三日早川當地滿鉄公所長ニ語

レル所ニヨレハ

廟台子引込線使用ニ関スル仮契約ハ東支管理局ト呼海工程局トノ間ニ締結セラレタルモ当初東支ノ主張セル使用料（引込線運賃）一布度当リ五哥ナリシヲ呼海總局ハ工

三、東支広信公司互惠契約ノ成行

東支広信公司間ニ互惠契約交渉ノ開始セラレタルハ九月末頃ト察セラル其内容的確ニ判明セサルモ滿鉄側ニテ内偵セル所ニ依レハ

〔一〕東支ハ「ザトン」ニアル広信公司ノ油房ニ向ツテ東支ノ費用ニテ引込線ヲ敷設スルコト
〔二〕東支ハ右引込線上ノ運賃ヲ一布度一哥トスルコト
(原註) 東支呼海連絡貨物ニ対スル東支ノ廟台子引込線ノ運賃ハ前述ノ通り一布度当リ四哥四ト協定セルヲ以テ若シ該協定ニシテ破棄セラルコトナカリ

セハ広信公司ハ同公司買付貨物以外ニ他人ノ貨物

ノ運送ヲモ引受ケ之ヲ廟台子ニ搬出スル代リニ「ザトン」ノ引込線ヲ通シテ東支線ニ搬出スルトキハ荷主ヨリハ廟台子引込線運賃一布度当リ四哥四ヲ徵収シ實際ニ於テハ「ザトン」引込線運賃一布度当リ一哥ヲ東支ニ支払ヒ残三哥四ハ広信公司ノ利益トナル勘定ナリ

〔三〕前二項ニ対スル代償トシテ広信公司ハ同公司取扱ニ係ル呼海經由輸出貨物中二千車ヲ浦潮ニ仕向クルコト滿鉄側ニ於テ東支広信公司間ニ如上協議ノ進行シ居ルコトヲ探知シタルハ十月初頃ノコトナルカ滿鉄側ニ於テハ右ハ滿鉄ニ取り重大ナル影響ヲ及ホスモノト為シ殊ニ滿鉄カ從來呼海ニ対シ多大ノ援助ヲ与ヘ居レル事情ニモ顧ミ打捨テ置キ難シトナシ右情報ノ入手ト同時ニ哈爾賓及當地ニ於テ本契約成立ノ阻止運動ニ着手シ尚未滿鉄本社ニテハ黒龍江省當局並ニ広信公司總弁折衝セシムル為メ鐵道部ノ酒井參事ヲ北滿ニ派遣セリ酒井參事ハ北滿ニ來ル途中奉天ニ下車シ大蔵理事ヨリ吳督軍宛ノ抗議書ヲ携ヘ當時奉天ニ滯在中ノ吳督軍ヲ訪ヒ嚴重抗議スル所アリタリ

其結果吳督軍ニ於テモ広信公司カ呼海ト同様同督軍ト密接

程局ニ対シ「右ハ余リ高率ナレハ大々的ニ割引セシムヘシ」ト命令シ四哥四ニ決定シタルモノナルカ其後ニ至リ四哥四ハ殆ント安達哈爾賓間ノ運賃ニ匹敵シ非常ニ高率ナルコトヲ知リ當局ノ不明ヲ悟ルト同時ニ「省長公署及呼海總局ノ認可ナキ契約ハ無効ナリ」トノロ実ノ下ニ之ヲ破棄シ新タニ東支理事会ト呼海工程局トノ間ニ最モ妥当ナル協定ノ商議ヲ進メツツアリ

トノコトナリ

九 東三省鐵道問題 一〇八九

一三五六

問題トナリ居リタル東支広信公司互惠契約ノ締結ハ之ヲ中止スルコトトナリ同時ニ却テ広信公司取扱貨物（呼海線經由ノモノト共ニ東支線經由ノモノヲモ含ム）ノ南行ニ閑シ満鉄側広信公司間ニ一ノ諒解ノ成立ヲ見ルニ至リ斯クノ如クニシテ本問題ハ客月末ヲ以テ解決ヲ告ケタリ

四、広信公司取扱貨物ノ南行ニ閑シ満鉄側ト広信公司間

二 成立セル諒解ノ内容

東支広信公司間ニ進行中ナリシ互惠契約ニ対スル満鉄側ノ態度ハ最初ハ之力成立ヲ阻止スルニ止ムル考ナリシカ阻止運動ノ進行スルト共ニ問題ハ満鉄ニ有利ニ展開シ其結果東支広信公司互惠契約ノ成立ヲ阻止シタル上広信公司取扱貨物ノ南行ニ閑シ満鉄側ト広信公司間ニ却テ一ノ諒解ノ成立ヲ見ルニ至レリ右諒解ノ内容ハ左ノ如シ

(一)、広信公司ノ南行貨物（呼海經由輸出ノモノナルノミナラス広信公司取扱貨物全部ヲ含ム）ニ対シテハ
国際運送ニ於テ一定ノ運賃割戻ヲ為スコト
(原註) 満鉄ヨリ割戻シヲ為スコトハ差支アルニ付国際運送ヲシテ割戻サシメ国際運送ニ対シテハ満鉄ヨリ何カノ名義ノ下ニ之ヲ補償スルコトセリ

解ノ結果
本諒解ノ結果満鉄側即チ国際運送力幾許ノ運賃割戻ヲ為スヤハ明ナラサルモ惟フニ右割戻ニシテ広信公司ヲ満足セシムルニ足ラサルトキハ支那側ノコト故何トカ口実ヲ設ケ満鉄ノ希望通リニ南行ヲ実行セサルヘク若シ右割戻カ広信公司ニ有利ナルトキハ同公司ハ今後其ノ取扱貨物ハ勿論他支那商ノ貨物ノ輸送ヲモ引受ケ之ヲ同公司名義ニテ発送スルニ至ルヘキコト疑ナカルヘク其結果邦商同業者ハ支那商ヨリモ不利ノ地位ニ立タサルヘカラサルコトナルハ甚々遺憾トスル所ナリ

哈爾賓ニ於テ満鉄側ヲ代表シ支那側ト折衝ノ任ニ當レル酒井參事ハ右諒解成立後昂昂線經由帰連ノ途次客月末当地ニ立寄タルニ付小官ハ同人ニ對シ前記ノ次第ヲ述ヘ此際邦人同業者ヲ支那商ヨリモ不利ノ地位ニ置カサル様満鉄ニ於テ相当考慮ヲ払フノ必要アルヘシト申聞ケタル處同人ハ其点ニ付テハ本社ニ於テモ充分考慮ヲ払ヒ何トカ方法ヲ講スル

積リナリト答ヘ居タリ

六、南行貨物諒解内容漏洩防止ニ対スル満鉄側ノ注意

本諒解ノ内容カ世間ニ漏ルルトキハ東支側ハ勿論邦人側ヨ

二、右諒解ノ有効期間ハ差当リ明年一月末迄トス

(原註) 満鉄側ニ於テハ広信公司ヲシテ南行ノ有利ナル

コトヲ知ラシメ遂ニハ割戻ナクトモ南行ヲ選フニ

至ル様ニ導ク方針ニシテ差当リ割戻諒解ハ特產物

ノ出廻期タル一月末迄トセルモノナリ

三、本諒解ハ双方各其ノ相手方ノ誠意ニ信頼シ書面ニ

認メサルコト

(原註) 此種諒解ハ支那側ノコト故東支側ニ筒抜ニ漏ル

ルモノナレハ書面ニ認メサルヲ便トセルモノナリ尚ホ満鉄側ニ於テハ国際運送ト広信公司トノ連絡ヲ円滑ナラシムルタメニ必要ナリトノ理由ノ下ニ将来呼海沿線各主要駅ニ置カルヘキ転運公司（広信公司系運送会社）ノ事務所内ニ国際運送ノ店員各一名ヲ派置シ呼海沿線ニ於ケル東行貨物ヲ調査スルト共ニ南行貨物ノ吸収ニ当ラシムル考ナリ

次ニ客月二日付小官発在哈爾賓天羽總領事宛公領機密第四三号中記載ノ張縫弁ニ対スル謝礼金ニ付テハ遣ルトモ遣ラヌトモ未タ何等決定スル所ナシトノコトナリ

五、満鉄側ト広信公司間ニ成立セル南行貨物ニ閑スル諒

リモ非難ヲ招クヘキニ付其ノ内容ハ之ヲ絶対極秘トナシ一切外間ニ洩ササルコトニ満鉄關係者間ニ於テ取極メタル由ナル處小官ニ対シテハ小官カ早川公所長ノ希望ニ依リ東支広信公司互惠契約ニ対スル満鉄側ノ希望（即チ満鉄側ノ希望ハ「殊更ニ一定ノ数量ヲ東行セシムルカ如キ契約ヲ為スコトナク呼海ノ貨物ハ東行スルトモ南行スルトモ自然ノ儘ニ委コトニセラレタシ」トノ意ナリキ）ヲ吳督軍（吳督軍ノ出奉前）ニ取次キタル（但シ小官ハ對露關係ヲ考慮シ深入リハ之ヲ避ケタリ）關係上小官ニハ秘シ能ハサルヨリ例外トシテ關係者一同ノ同意ヲ得テ早川公所長ヨリ本件諒解内容ノ要点ヲ小官ニ内話セルモノナリ右御含ミノ上本件諒解極秘ニ御取扱相顧度シ

右報告ス

本信写送付先 在露大使、在支公使、奉天、哈爾賓總領事

(5) 打通鐵道關係

在奉天吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）